

北 区

障害者実態・意向調査報告書

概 要 版

令和2年3月



目次

1. 調査の目的と方法	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査の対象と調査方法	1
(3) 調査期間	1
(4) 配付・回収状況	1
2. 調査結果の詳細	2
(1) 年齢	2
(2) 障害の種類	3
(3) 医療的ケアの必要性	4
(4) 最近1年間の入院状況	5
(5) 住まいの種類	7
(6) 将来の住まいの希望	8
(7) 本人の収入	10
(8) 就労状況	11
(9) 働くために必要な支援	12
(10) 介護者	14
(11) 主な介護者の年齢	15
(12) 外出に関して困っていること	16
(13) 情報入手に関して困っていること	18
(14) 困ったときの相談先	19
(15) 相談の内容	21
(16) 相談しやすい体制作りのために必要なこと	22
(17) 障害福祉サービスの利用 ①一般のサービス	23

(18) 障害福祉サービスの利用 ②児童を対象としたサービス	24
(19) 北区独自サービスの利用	24
(20) 療育についての希望	25
(21) 小学生～高校生の教育や学校生活についての希望	26
(22) 成年後見制度の認知と利用	27
(23) 障害者差別解消法の認知状況	27
(24) 障害を理由とする差別を感じた経験	28
(25) 災害への不安として感じる事	29
(26) 社会活動への取り組み	30
(27) 地域で安心して暮らすために重要な施策	31

1 調査の目的と方法

(1) 調査の目的

本調査は、令和2（2020）年度に予定する「北区障害者計画」の改定及び「第6期北区障害福祉計画・第2期北区障害児福祉計画」の策定に向け、北区内在住の障害者（障害児を含む。）及び難病患者の生活実態及び障害福祉サービス等利用状況やニーズを調査するとともに、障害福祉政策への意向を把握することを目的としています。

(2) 調査の対象と調査方法

調査の対象	調査方法
北区内在住の、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費（指定難病）受給者証または $\textcircled{\text{都}}$ 医療券をお持ちの方から無作為に抽出した約4,000人	調査票を郵送配布し、郵送回収する方法で実施しました。

(3) 調査期間

令和2年1月6日（月）～令和2年1月27日（月）の期間に実施しました。

（調査基準日 令和2年1月1日（水））

(4) 配付・回収状況

配付数	回収数	白票・無効票	有効回収数	有効回収率
3,981	1,976	2	1,974	49.6%

※ 配付数の内訳・・・身体障害 1,796、知的障害 699、精神障害 686、難病 800

◆ 調査結果の見方について

- ① 集計した数値（％）は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（％）を全て合計しても、100%にならない場合があります。
- ② 回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100%を越えます。
- ③ 障害別の集計では、2つ以上の障害を重複してお持ちの方は、それぞれの障害の集計結果に含まれています。このため、障害別の集計を合計したのべ人数は、全体の人数よりも多くなります。
- ④ 集計区分によっては母数が少ないため、活用にあたっては注意が必要です。

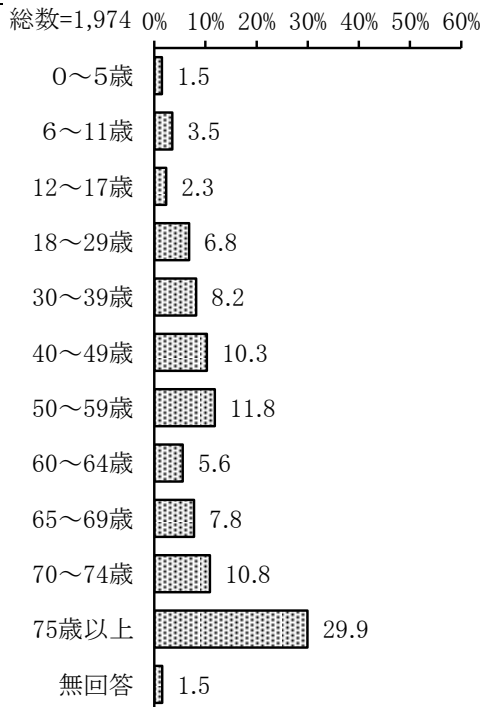
2 調査結果の詳細

(1) 年齢

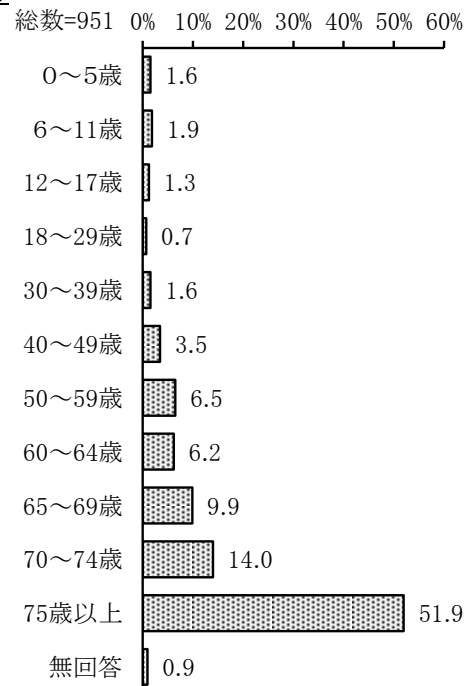
全体では、「75歳以上」が29.9%で最も多く、次いで「50～59歳」(11.8%)、「70～74歳」(10.8%)、「40～49歳」(10.3%)となっています。

障害別に見ると、知的障害では「18～29歳」が、精神障害では「50～59歳」が最も多くなっています。

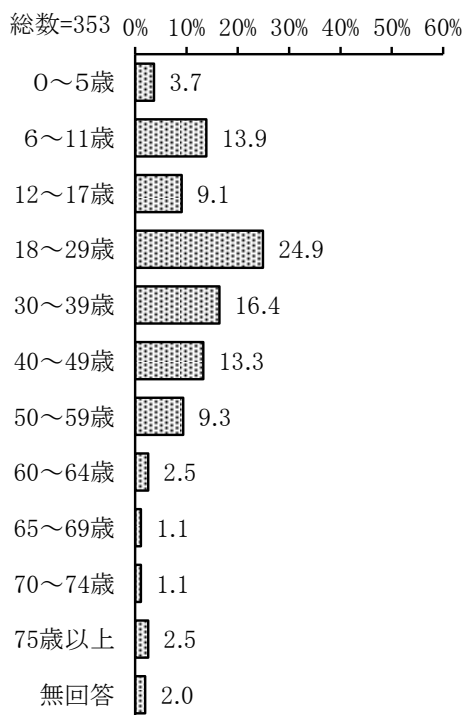
全体



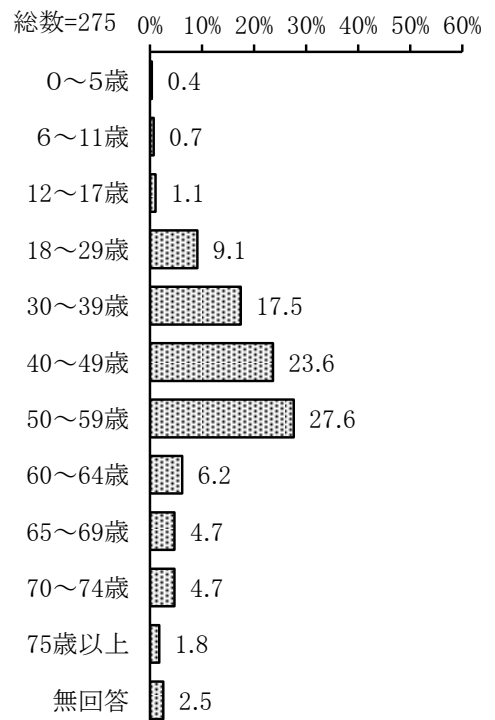
身体障害



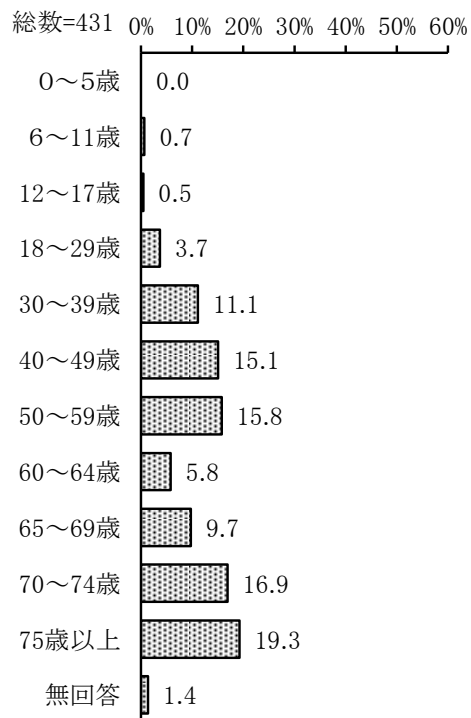
知的障害



精神障害

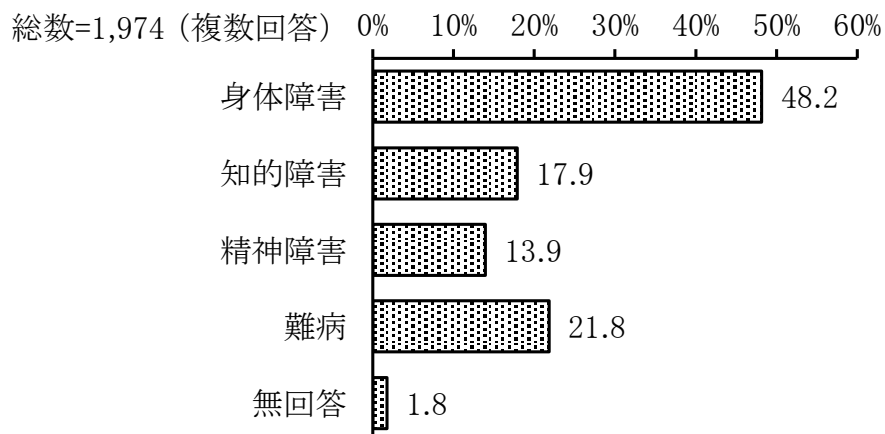


難病



(2) 障害の種類

「身体障害」が48.2%で最も多く、次いで「難病」(21.8%)、「知的障害」(17.9%)、「精神障害」(13.9%)となっています。



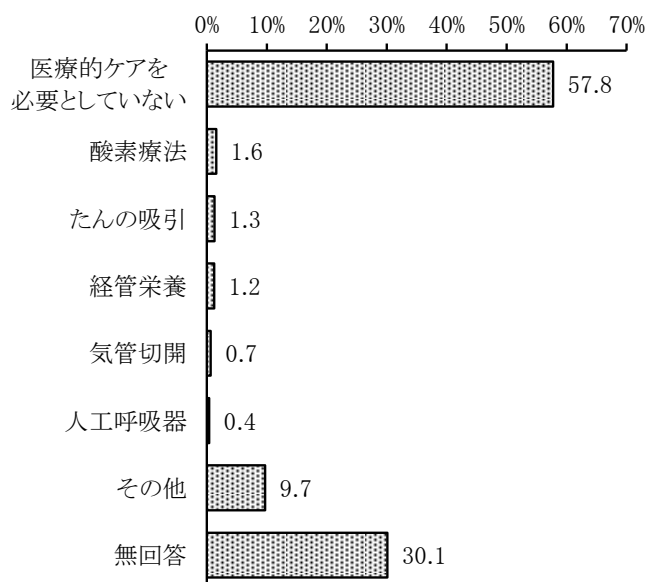
(3) 医療的ケアの必要性

全体では、「医療的ケアを必要としていない」と無回答を足した合計が9割弱となっています。医療的ケアの内容では、「酸素療法」が1.6%で最も多く、次いで「たんの吸引」(1.3%)、「経管栄養」(1.2%)となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向でした。

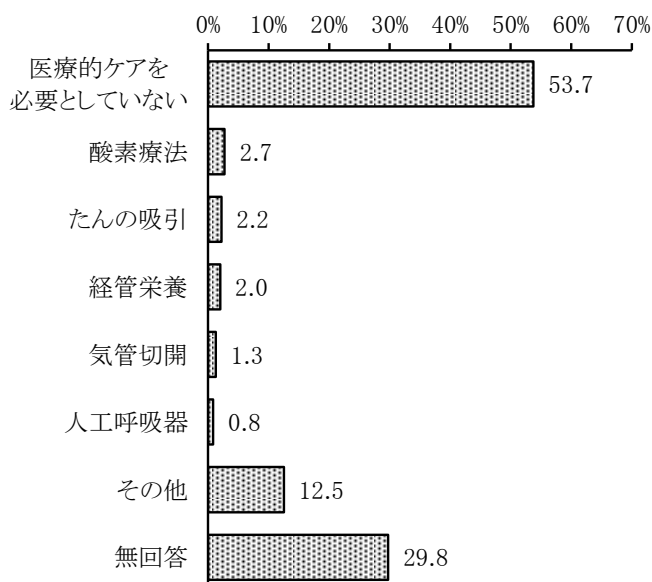
全体

総数=1,974 (複数回答)



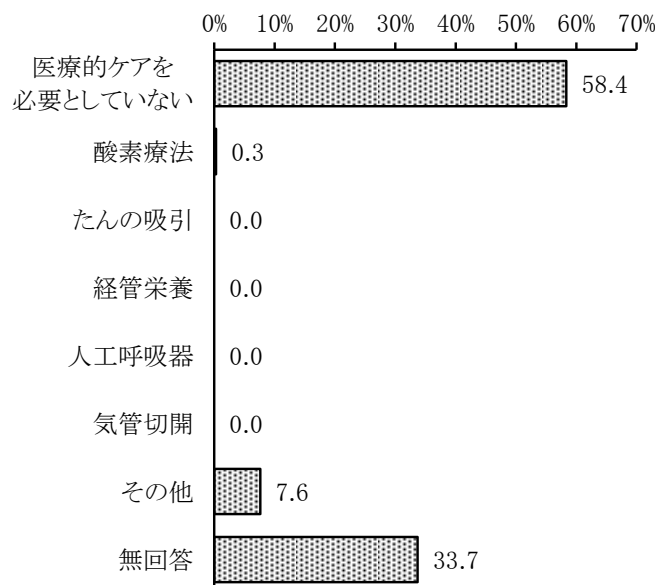
身体障害

総数=951 (複数回答)



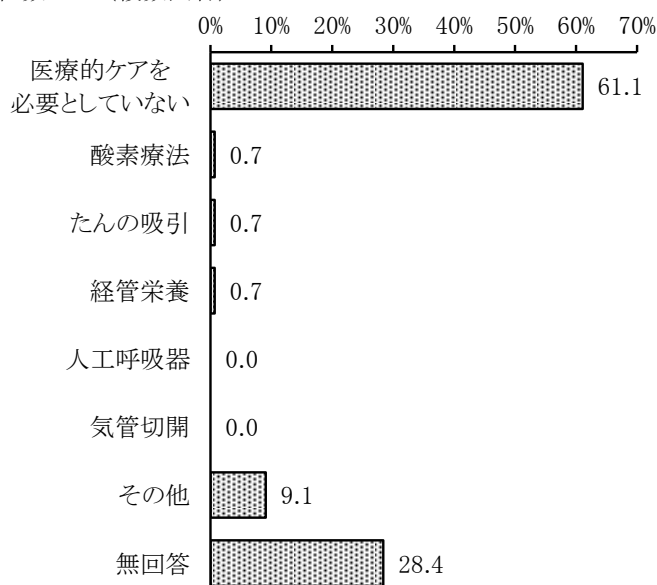
知的障害

総数=353 (複数回答)



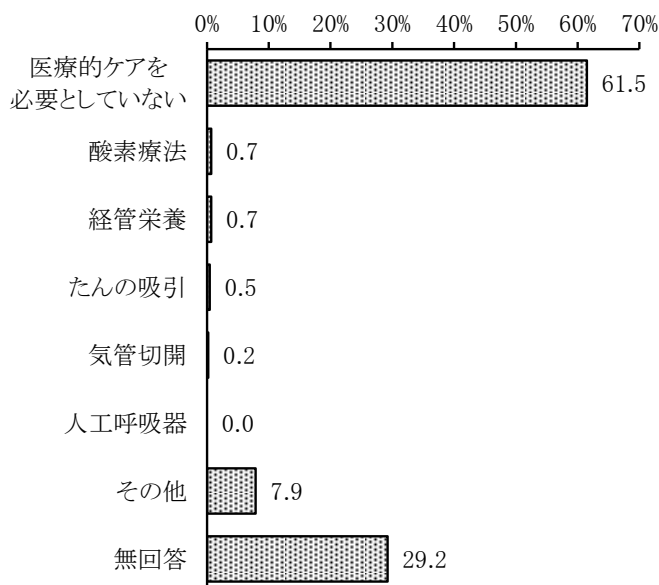
精神障害

総数=275 (複数回答)



難病

総数=431 (複数回答)

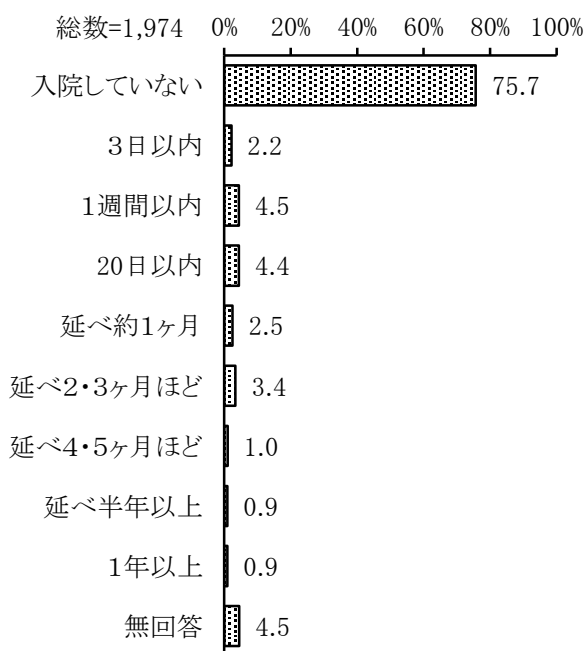


(4) 最近1年間の入院状況

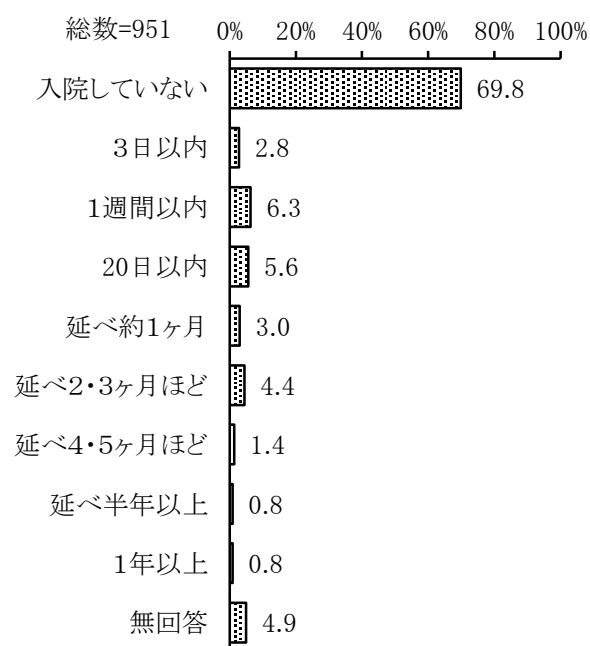
全体では、「入院していない」が75.7%で最も多く、次いで「1週間以内」(4.5%)、「20日以内」(4.4%)、「延べ2・3ヶ月ほど」(3.4%)となっています。

障害別の結果も概ね同様の傾向でした。

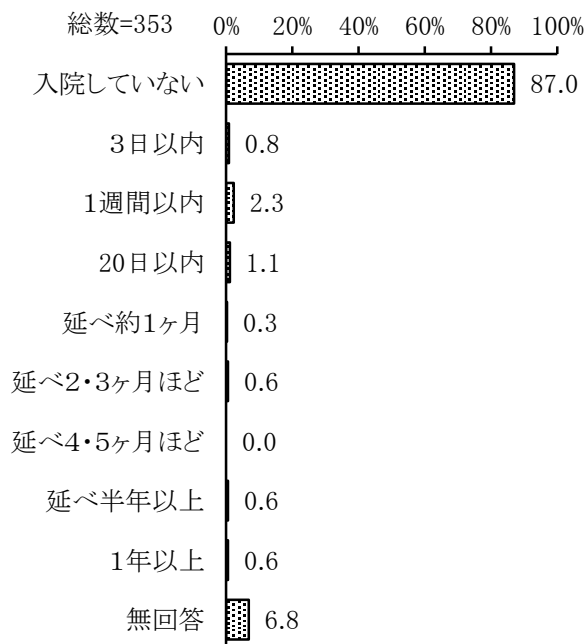
全体



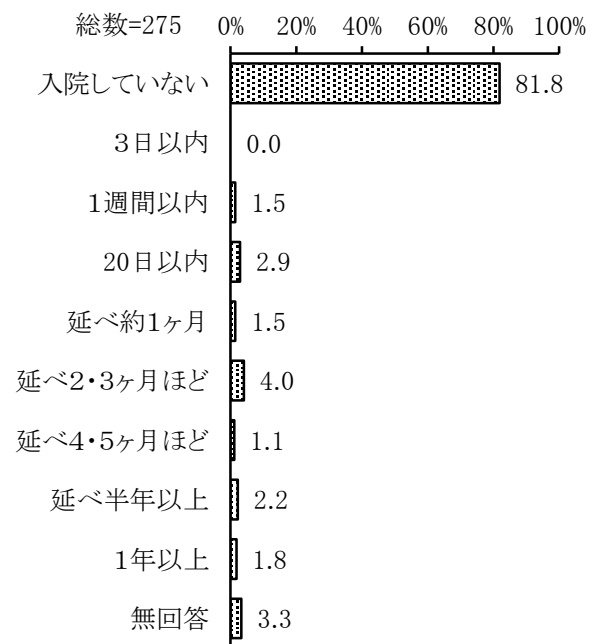
身体障害



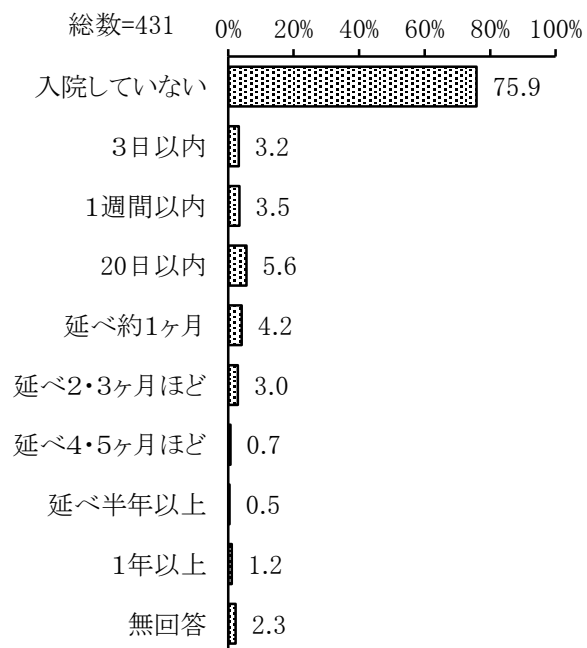
知的障害



精神障害



難病

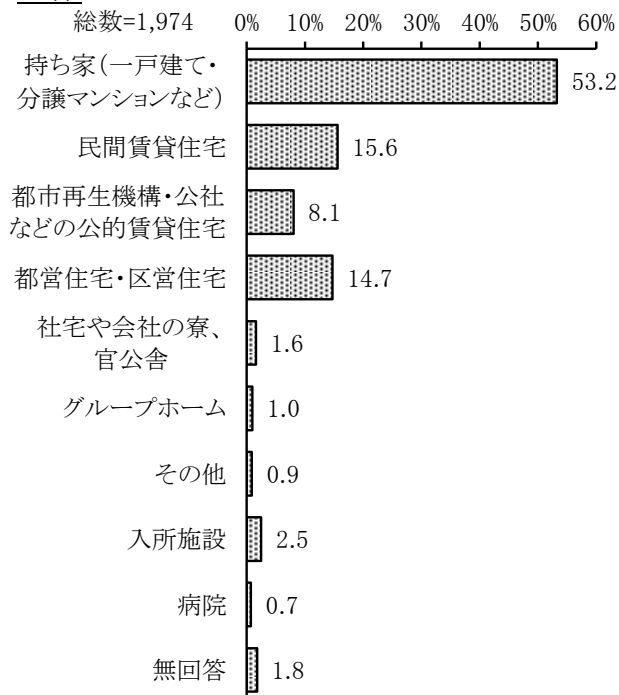


(5) 住まいの種類

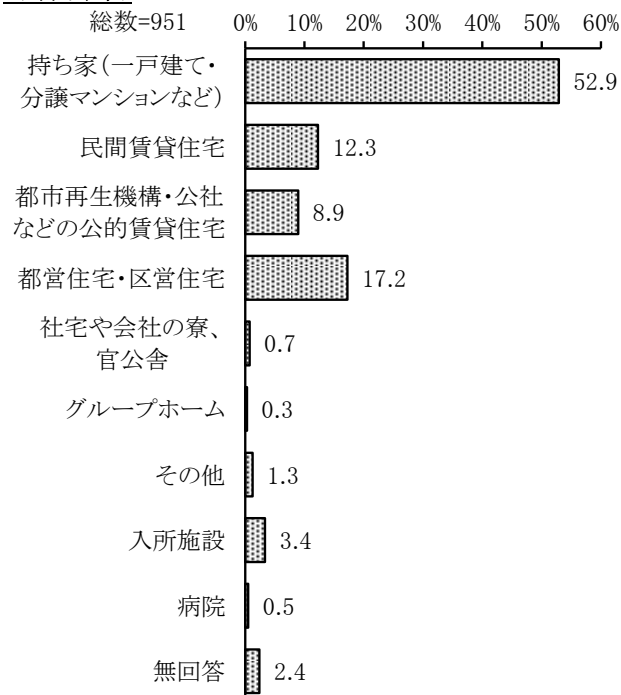
全体では、「持ち家（一戸建て・分譲マンションなど）」が53.2%で最も多く、次いで「民間賃貸住宅」（15.6%）、「都営住宅・区営住宅」（14.7%）、「都市再生機構・公社などの公的賃貸住宅」（8.1%）となっています。

障害別に見ると、精神障害、難病では「民間賃貸住宅」がやや多くなっています。

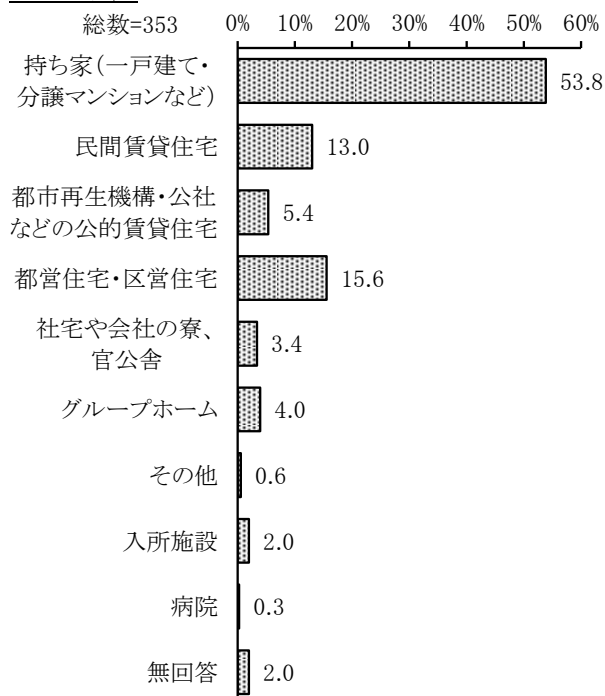
全体



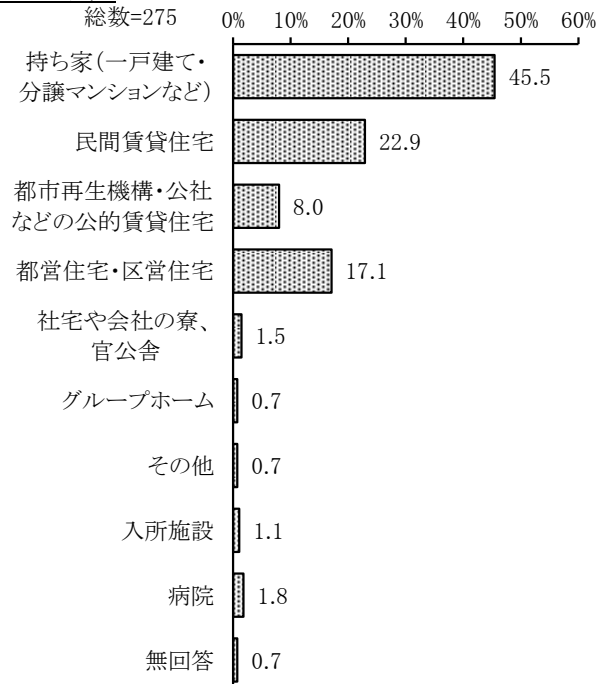
身体障害



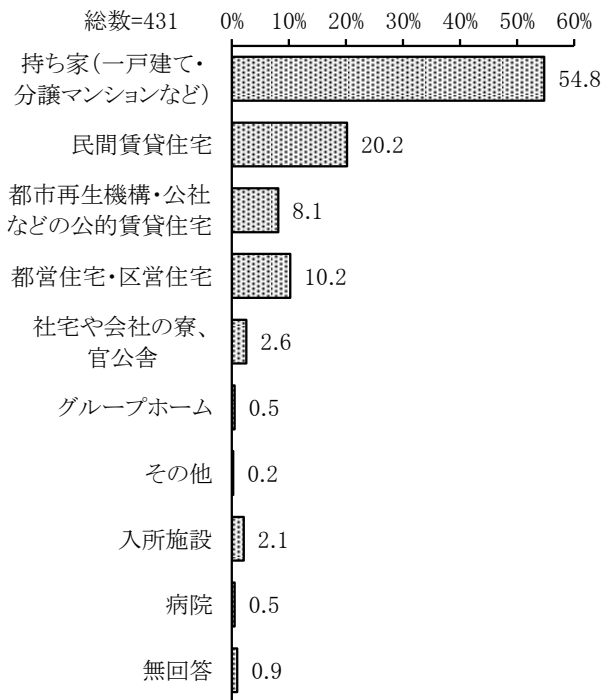
知的障害



精神障害



難病

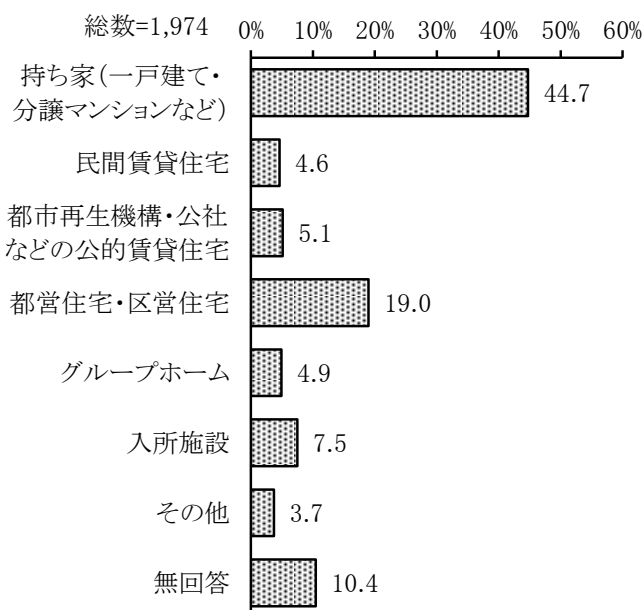


(6) 将来の住まいの希望

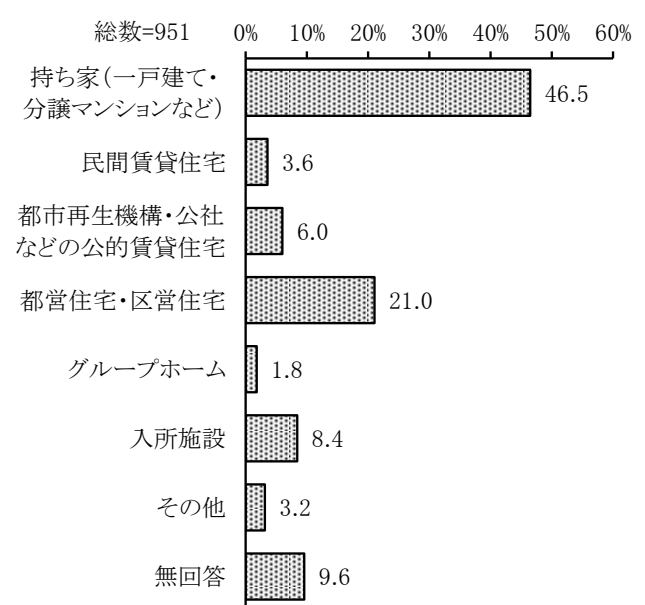
全体では、「持ち家(一戸建て・分譲マンションなど)」が44.7%で最も多く、次いで「都営住宅・区営住宅」(19.0%)、「入所施設」(7.5%)、「都市再生機構・公社などの公的賃貸住宅」(5.1%)となっています。

障害別に見ると、知的障害では「グループホーム」がやや多くなっています。

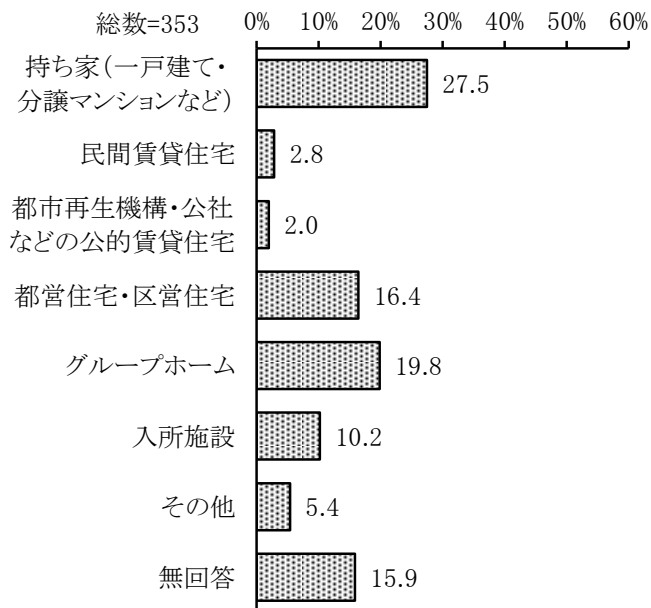
全体



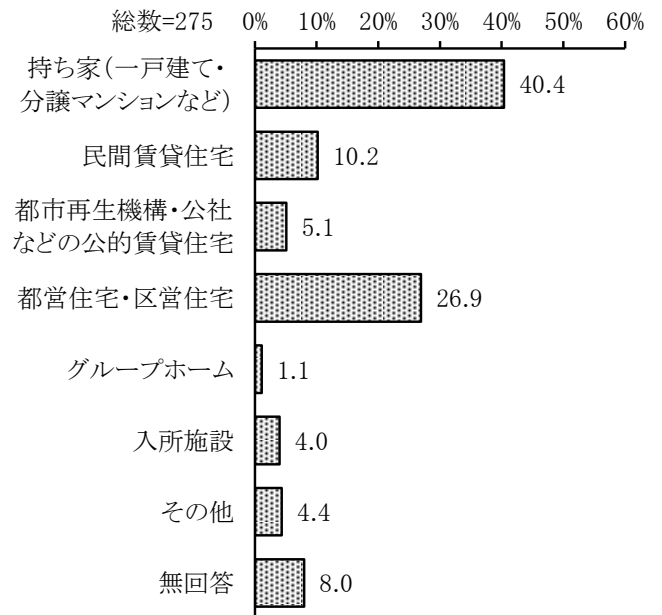
身体障害



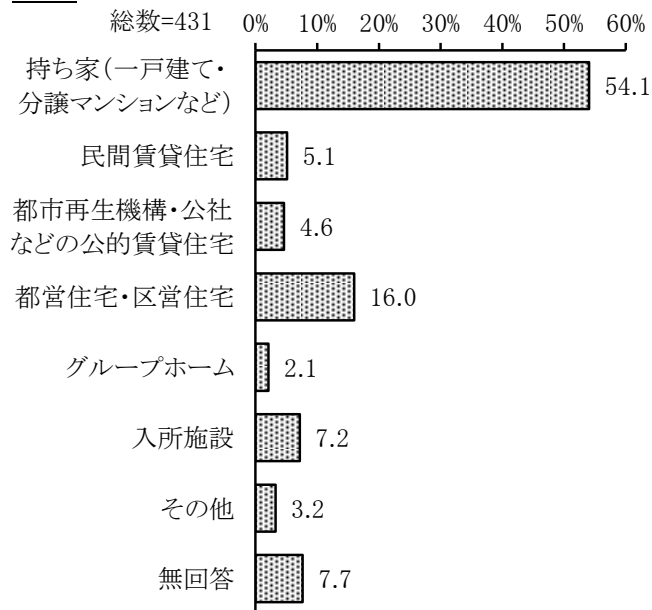
知的障害



精神障害



難病

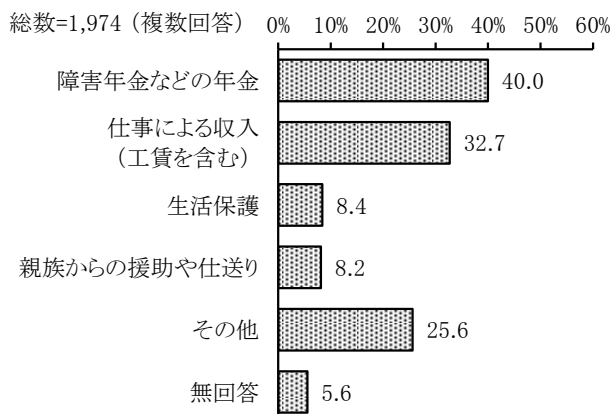


(7) 本人の収入

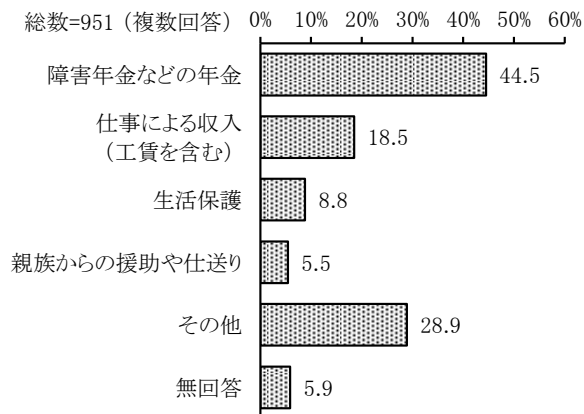
全体では、「障害年金などの年金」が40.0%で最も多く、次いで「仕事による収入（工賃を含む）」(32.7%)、「生活保護」(8.4%)、「親族からの援助や仕送り」(8.2%) となっています。

障害別に見ると、難病では「仕事による収入（工賃を含む）」が最も多くなっています。

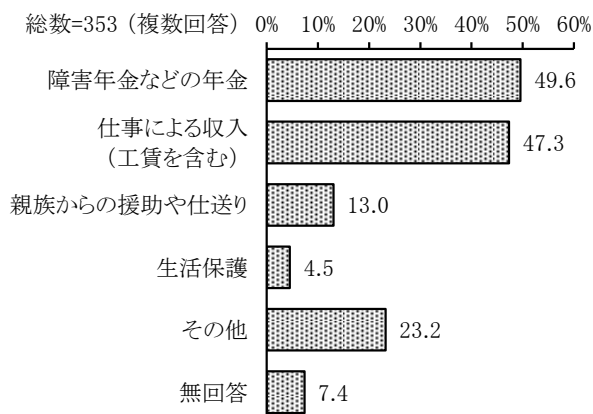
全体



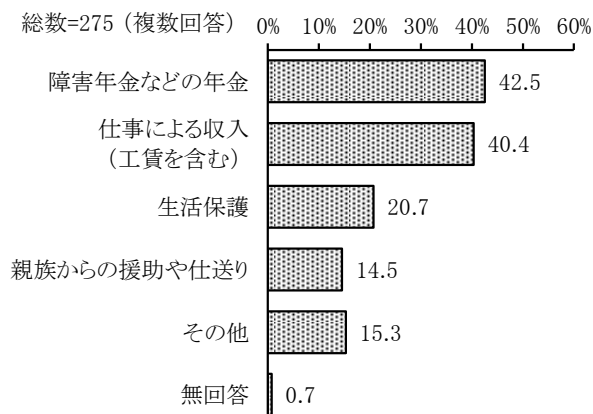
身体障害



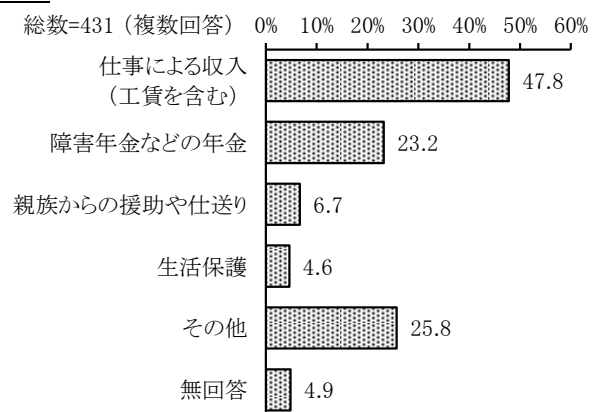
知的障害



精神障害



難病



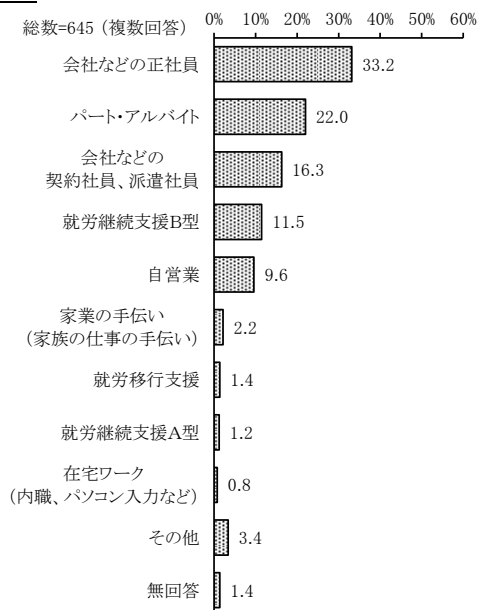
(8) 就労状況

● (7) で「仕事による収入 (工賃を含む)」と回答した方への質問

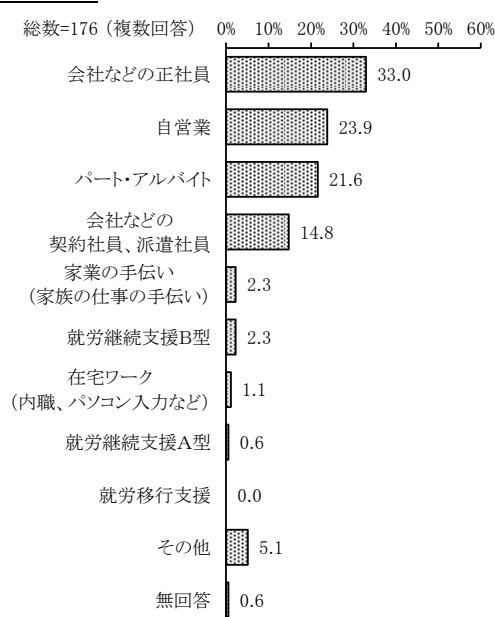
全体では、「会社などの正社員」が 33.2%で最も多く、次いで「パート・アルバイト」(22.0%)、「会社などの契約社員、派遣社員」(16.3%)、「就労継続支援B型」(11.5%)となっています。

障害別に見ると、知的障害では「就労継続支援B型」が最も多くなっています。

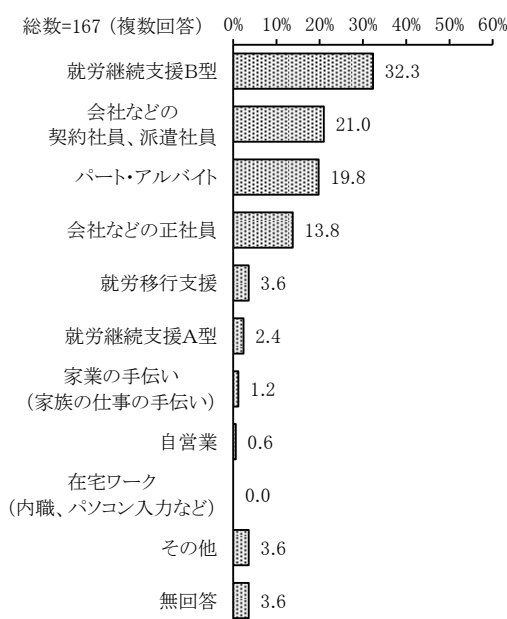
全体



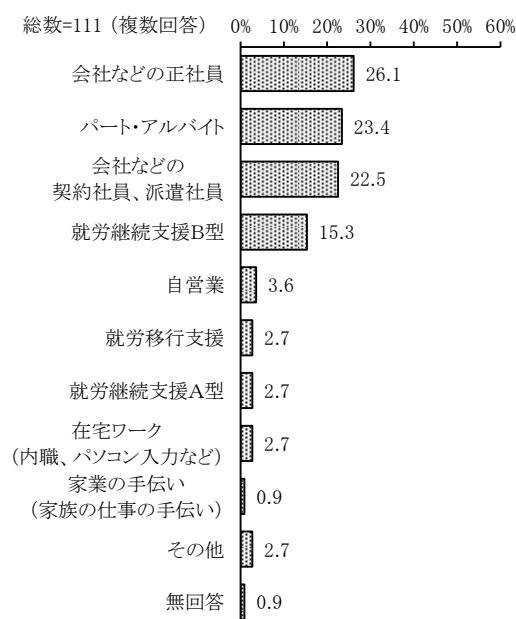
身体障害



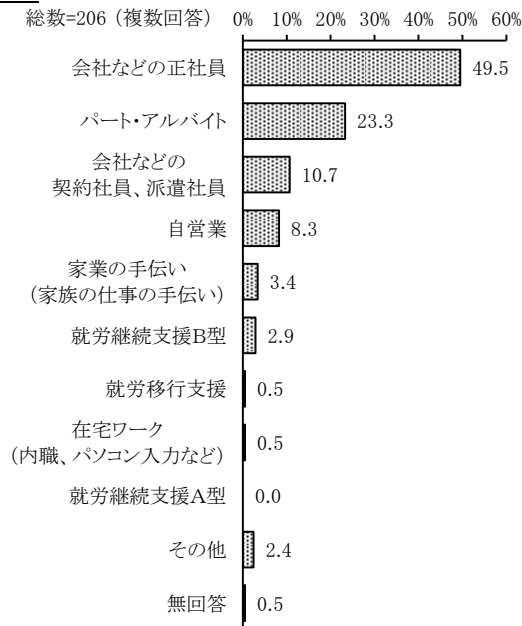
知的障害



精神障害



難病

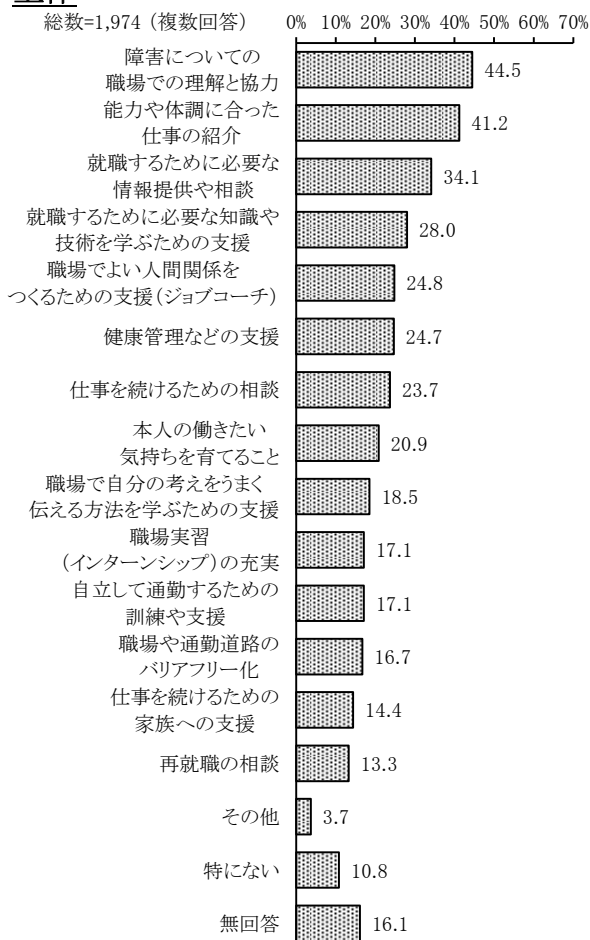


(9) 働くために必要な支援

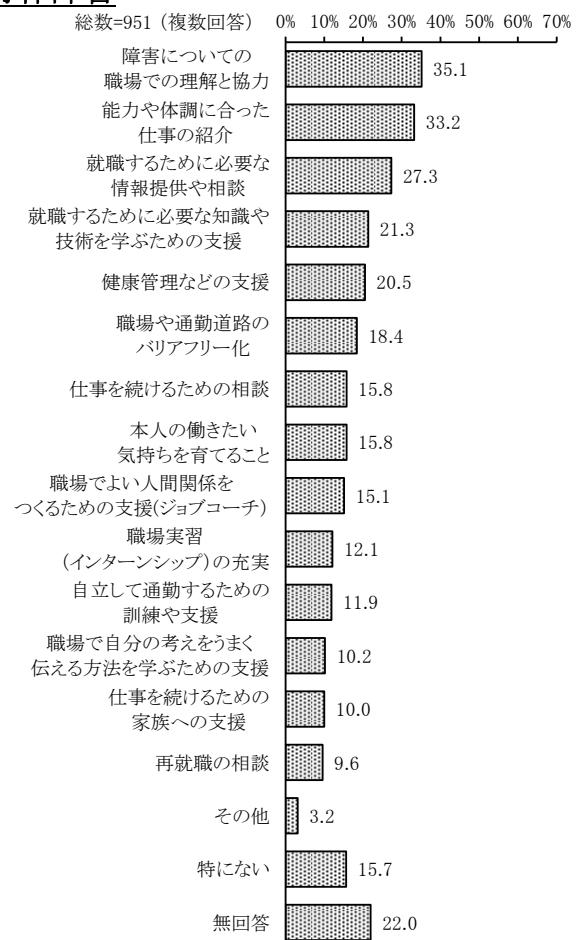
全体では、「障害についての職場での理解と協力」が 44.5%で最も多く、次いで「能力や体調に合った仕事の紹介」(41.2%)、「就職するために必要な情報提供や相談」(34.1%)、「就職するために必要な知識や技術を学ぶための支援」(28.0%) となっています。

障害別に見ると、難病では「能力や体調に合った仕事の紹介」が最も多くなっています。

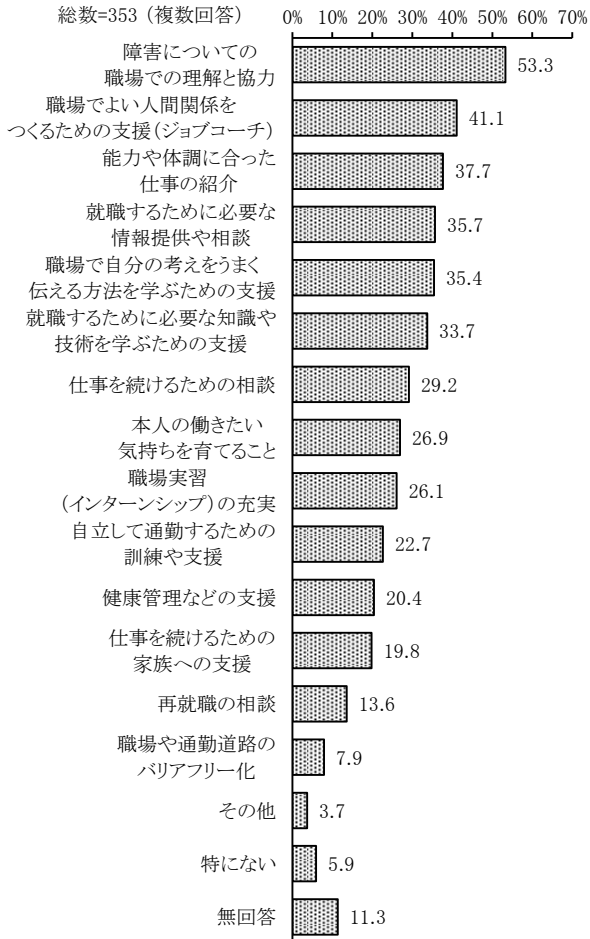
全体



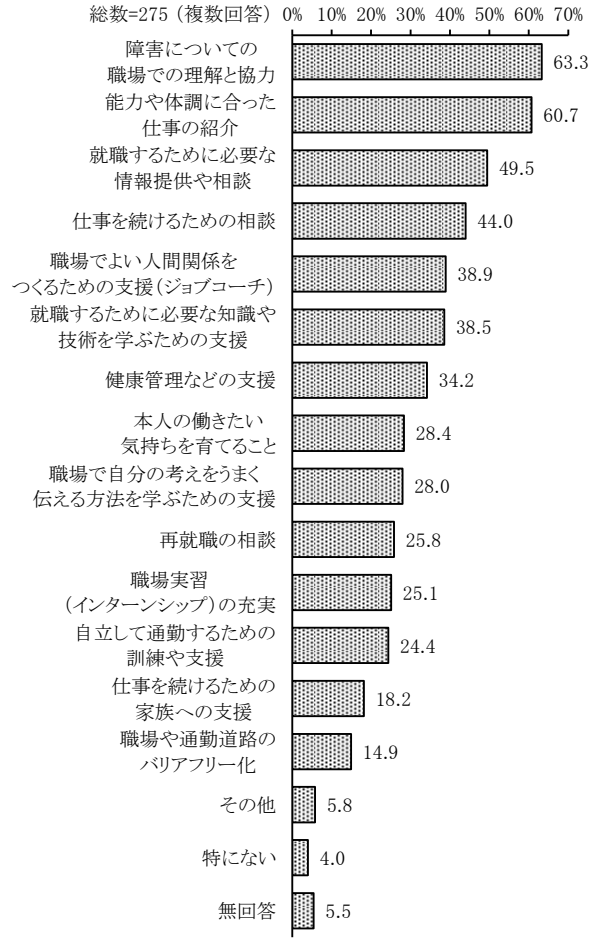
身体障害



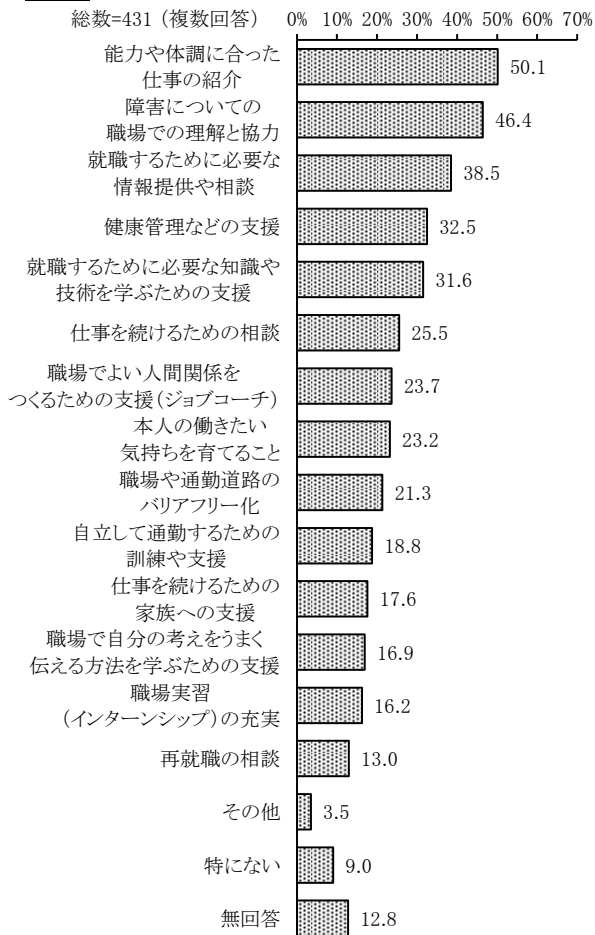
知的障害



精神障害



難病

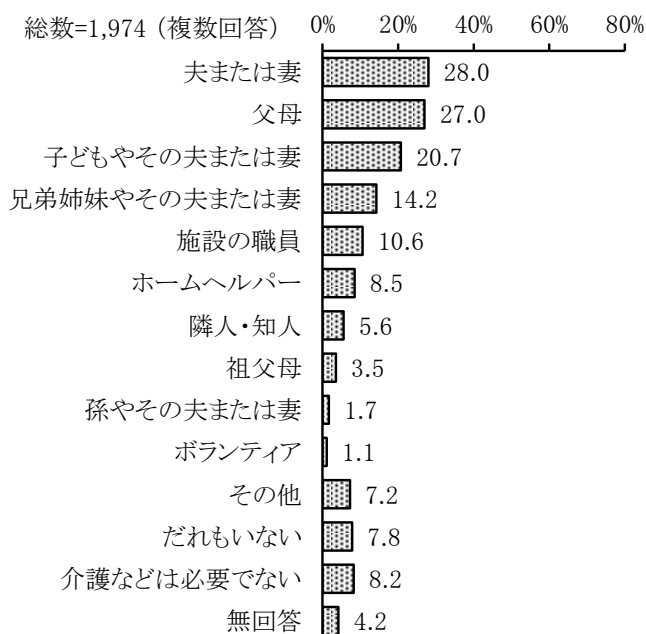


(10) 介護者

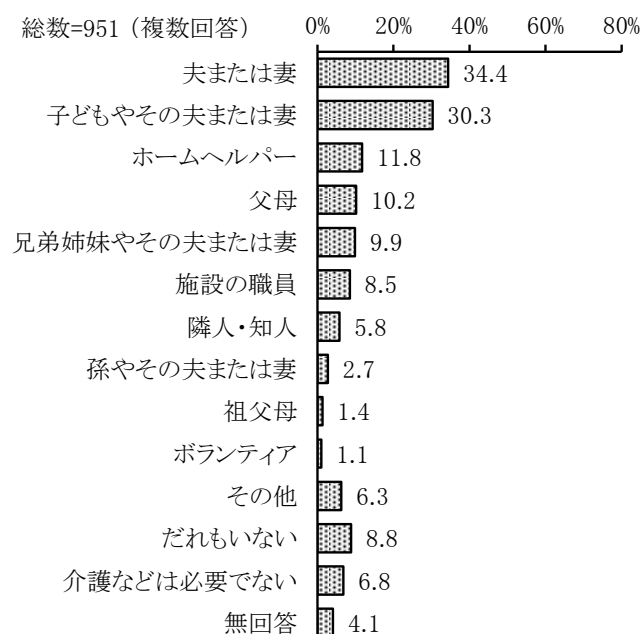
全体では、「夫または妻」が28.0%で最も多く、次いで「父母」(27.0%)、「子どもやその夫または妻」(20.7%)、「兄弟姉妹やその夫または妻」(14.2%)となっています。

障害別に見ると、知的障害、精神障害では「父母」が最も多くなっています。

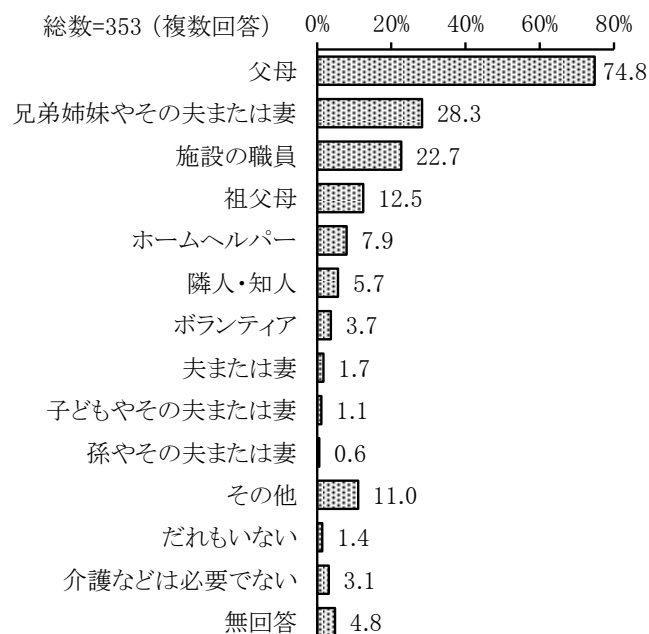
全体



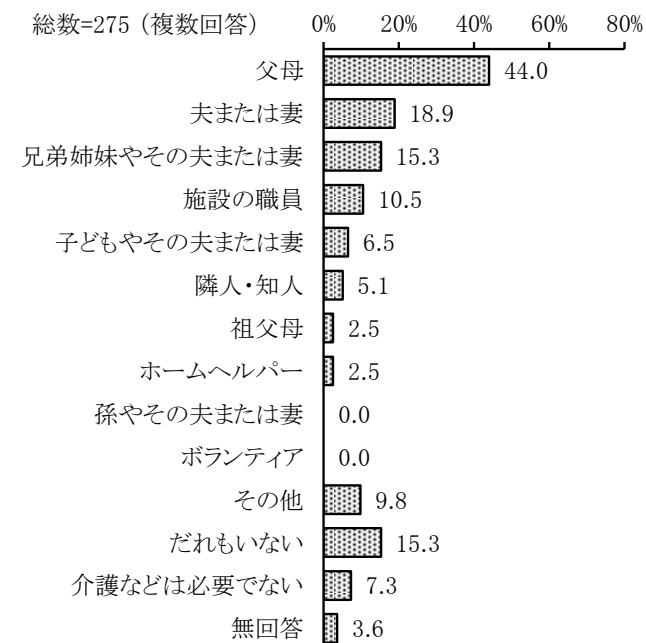
身体障害



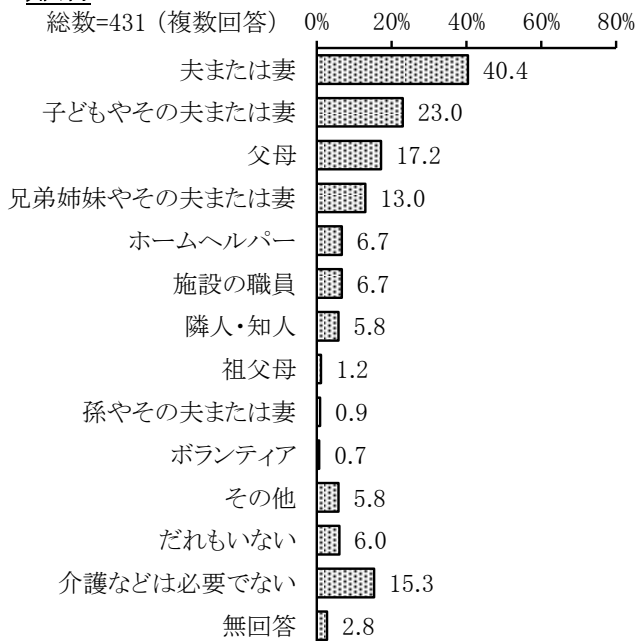
知的障害



精神障害



難病



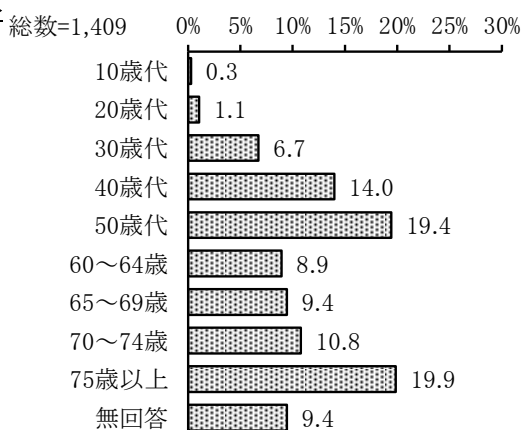
(11) 主な介護者の年齢

● (10) で親族(「夫または妻」「父母」「兄弟姉妹やその夫または妻」「子どもやその夫または妻」「孫やその夫または妻」「祖父母」と回答した方への質問

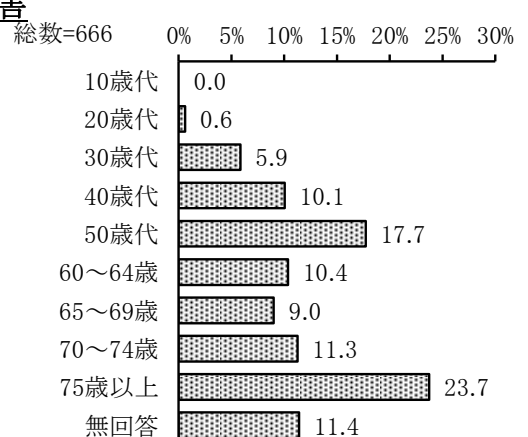
全体では、「75歳以上」が19.9%で最も多く、次いで「50歳代」(19.4%)、「40歳代」(14.0%)、「70～74歳」(10.8%)となっています。

障害別に見ると、知的障害、難病では「50歳代」が最も多くなっています。

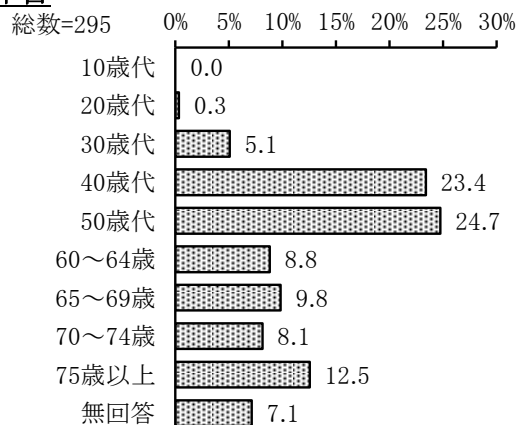
全体



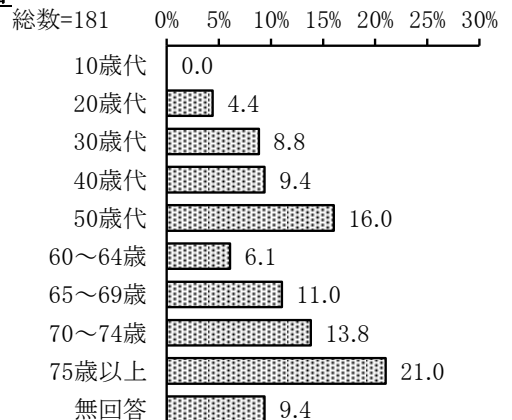
身体障害



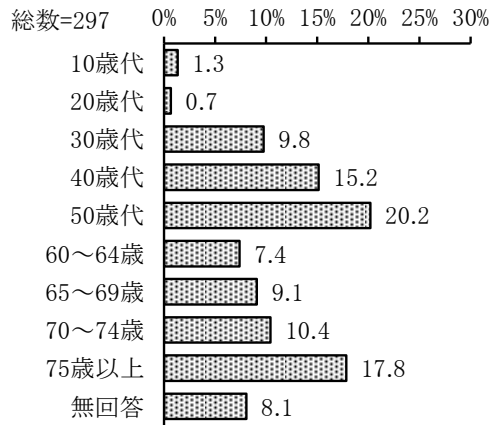
知的障害



精神障害



難病

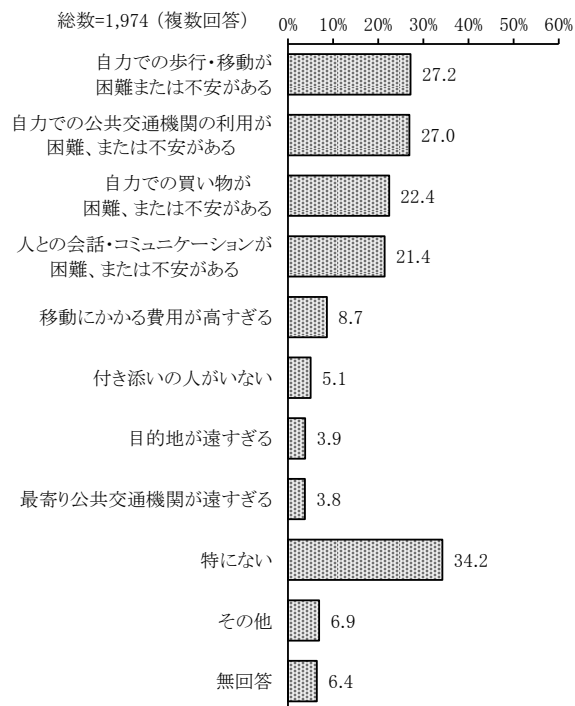


(12) 外出に関して困っていること

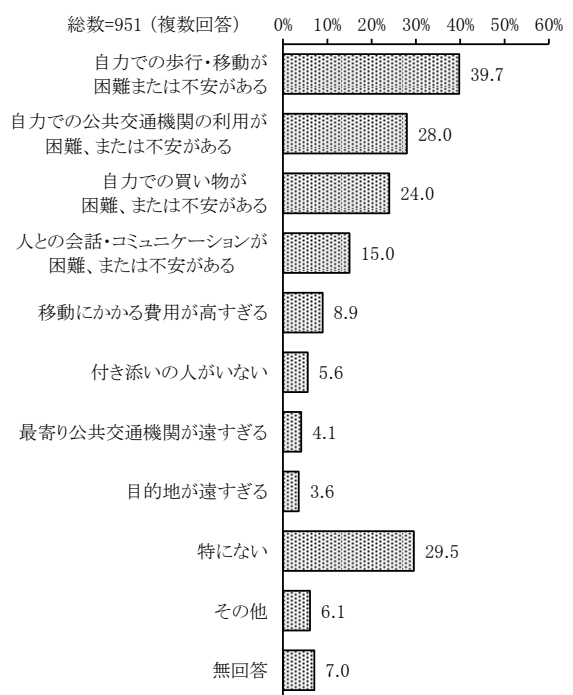
全体では、「自力での歩行・移動が困難または不安がある」が 27.2%で最も多く、次いで「自力での公共交通機関の利用が困難、または不安がある」(27.0%)、「自力での買い物が困難、または不安がある」(22.4%)、「人との会話・コミュニケーションが困難、または不安がある」(21.4%) となっています。

障害別に見ると、知的障害、精神障害では「人との会話・コミュニケーションが困難、または不安がある」が最も多くなっています。

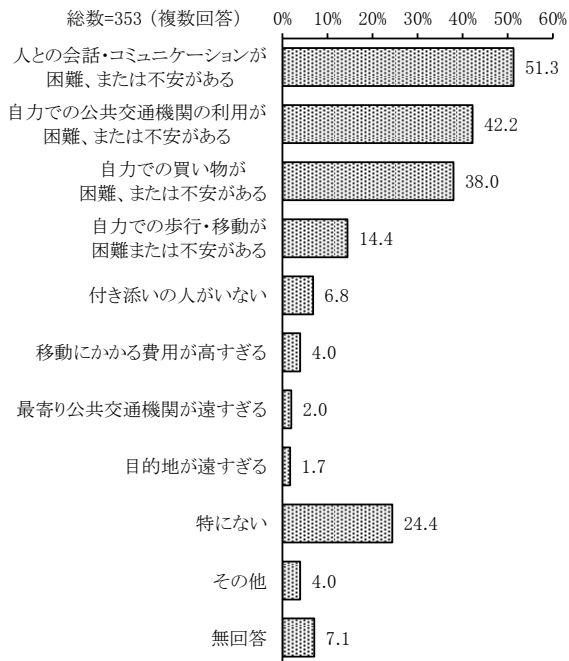
全体



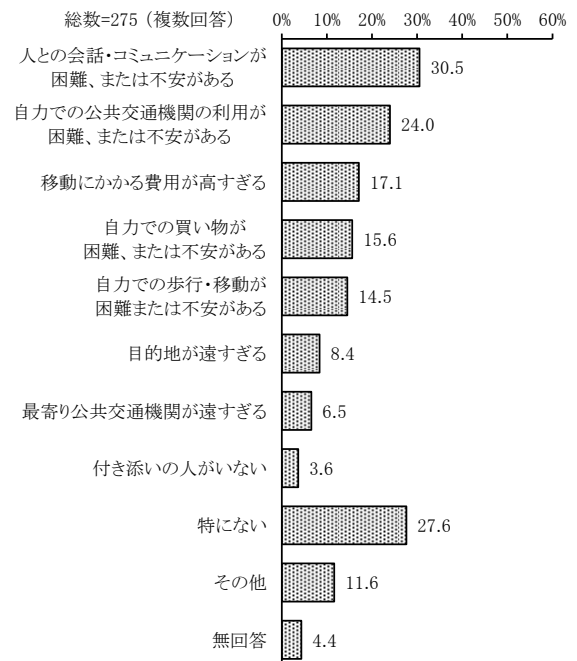
身体障害



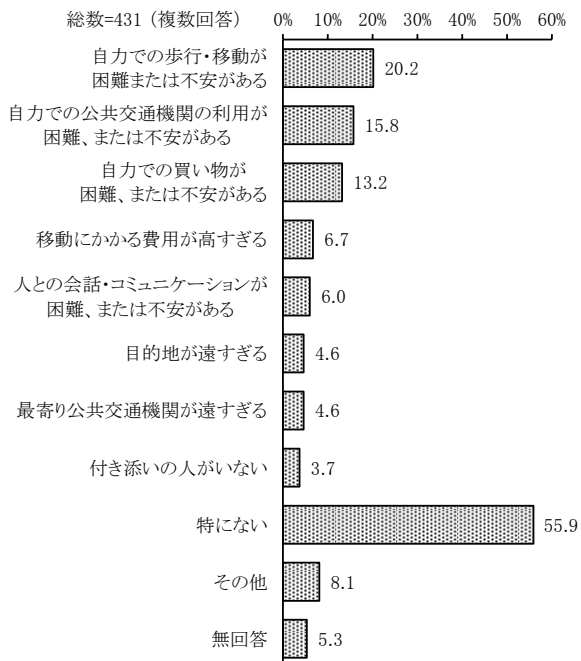
知的障害



精神障害



難病

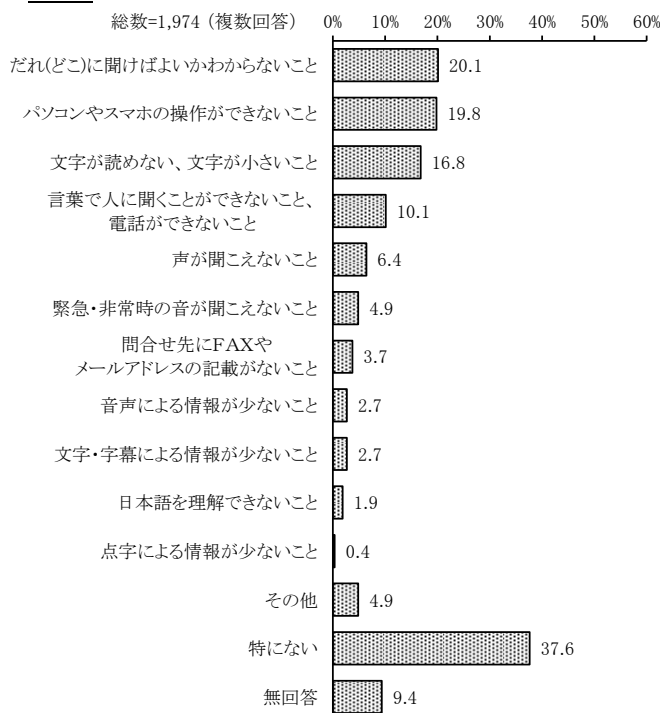


(13) 情報入手に関して困っていること

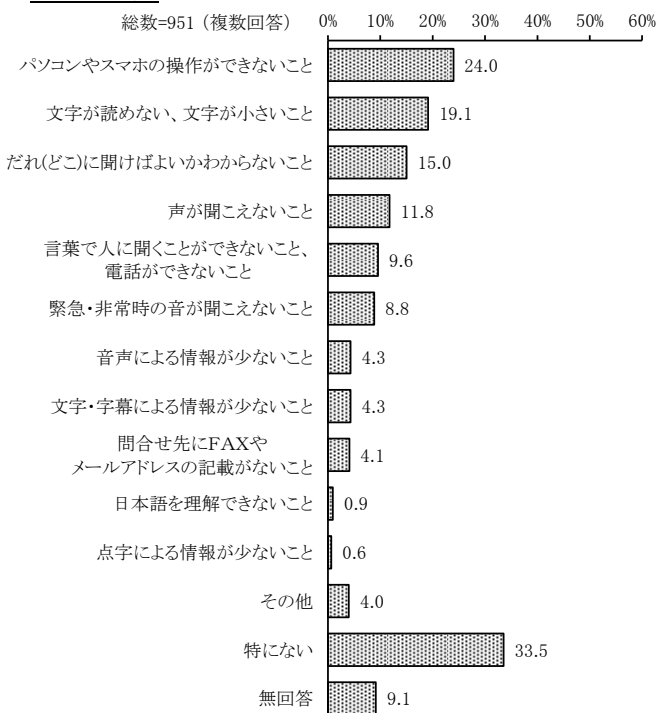
全体では、「だれ(どこ)に聞けばよいかわからないこと」が20.1%で最も多く、次いで「パソコンやスマホの操作ができないこと」(19.8%)、「文字が読めない、文字が小さいこと」(16.8%)、「言葉で人に聞くことができないこと、電話ができないこと」(10.1%)となっています。

障害別に見ると、身体障害では「パソコンやスマホの操作ができないこと」が最も多くなっています。

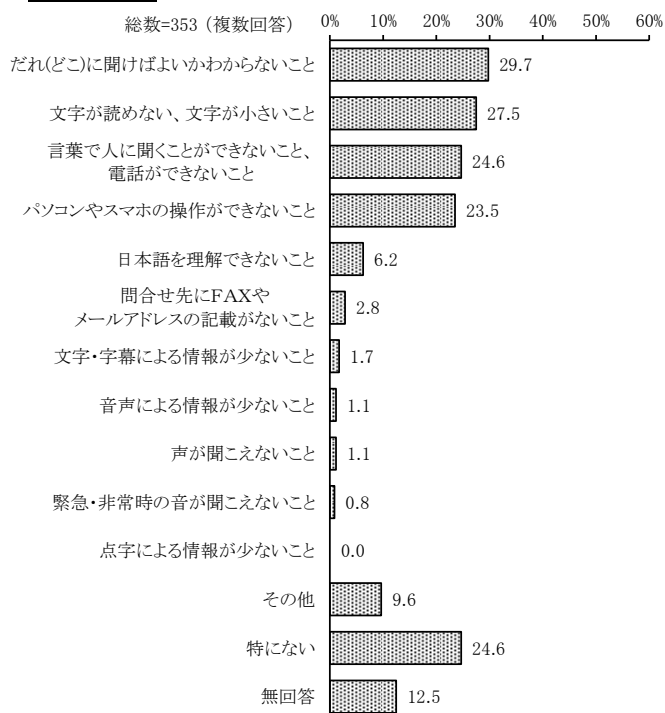
全体



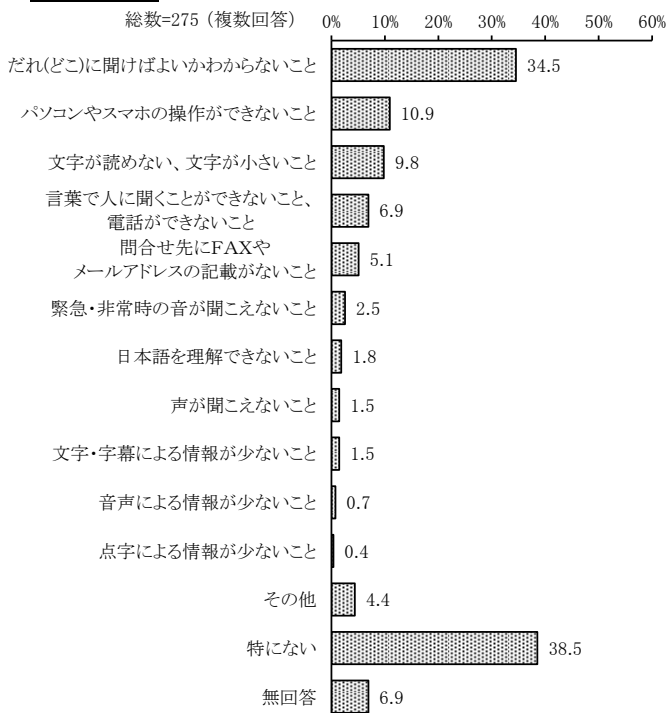
身体障害



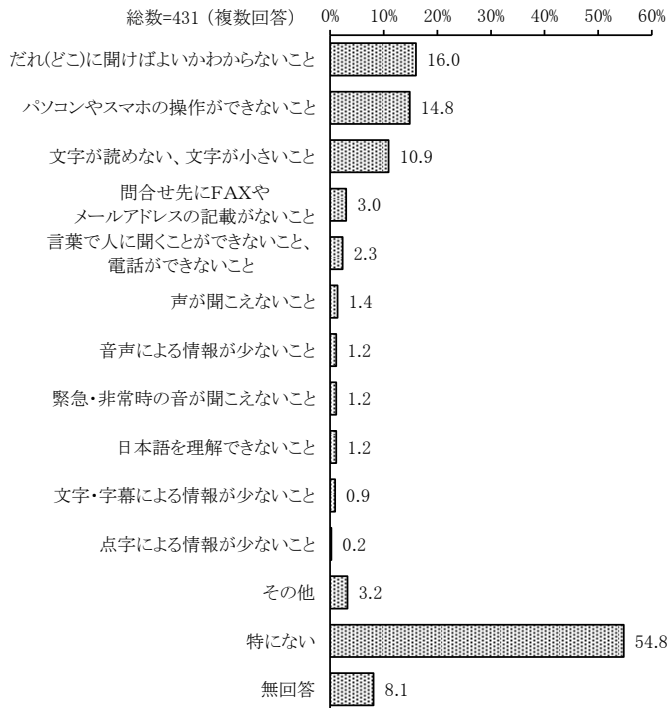
知的障害



精神障害



難病

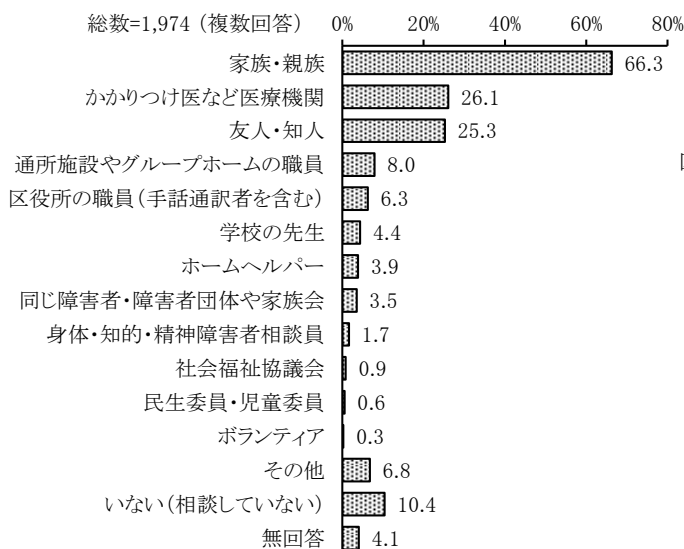


(14) 困ったときの相談先

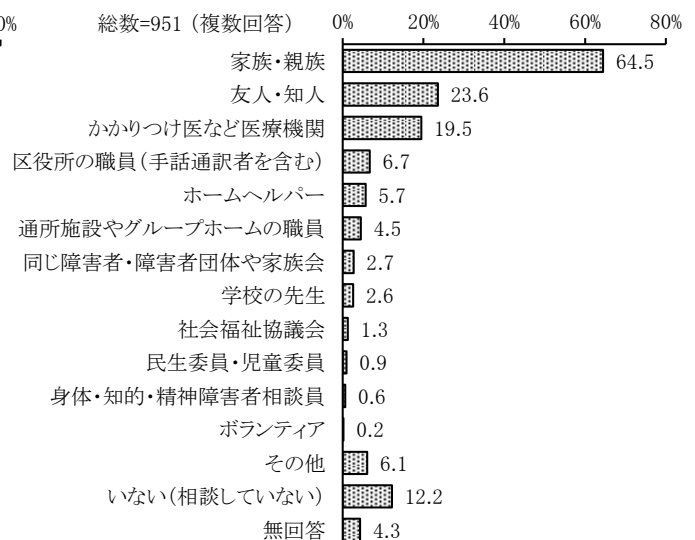
全体では、「家族・親族」が 66.3%で最も多く、次いで「かかりつけ医など医療機関」(26.1%)、「友人・知人」(25.3%)、「通所施設やグループホームの職員」(8.0%) となっています。

障害別に見ると、難病では「友人・知人」が、知的障害では「通所施設やグループホームの職員」が、精神障害では「かかりつけ医など医療機関」がやや多くなっています。

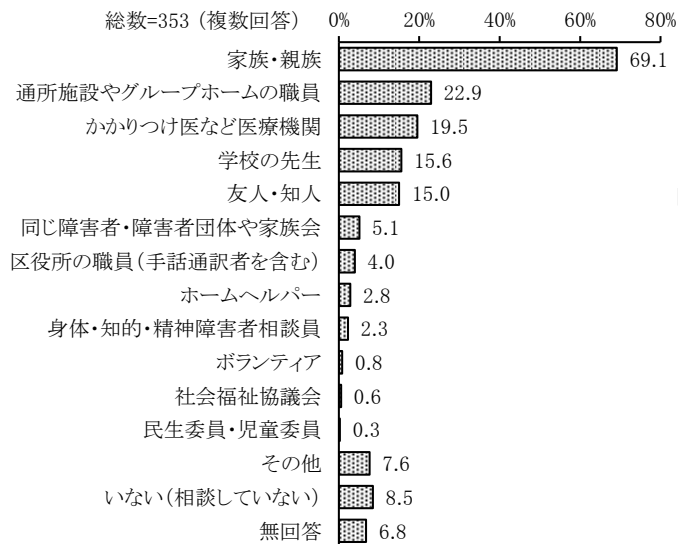
全体



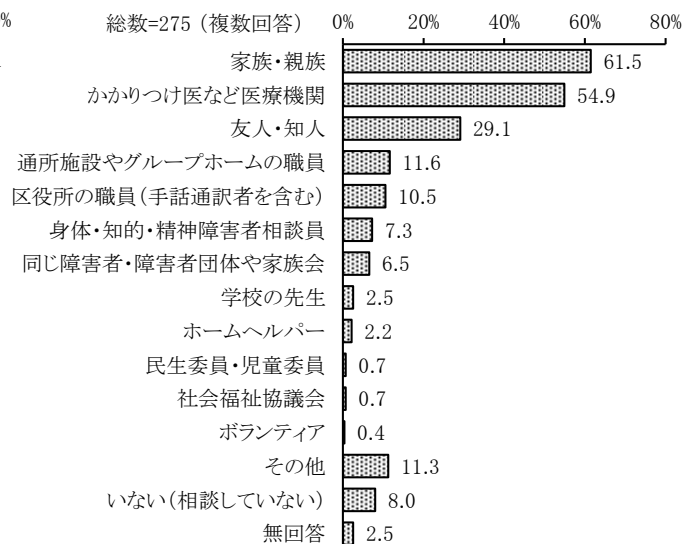
身体障害



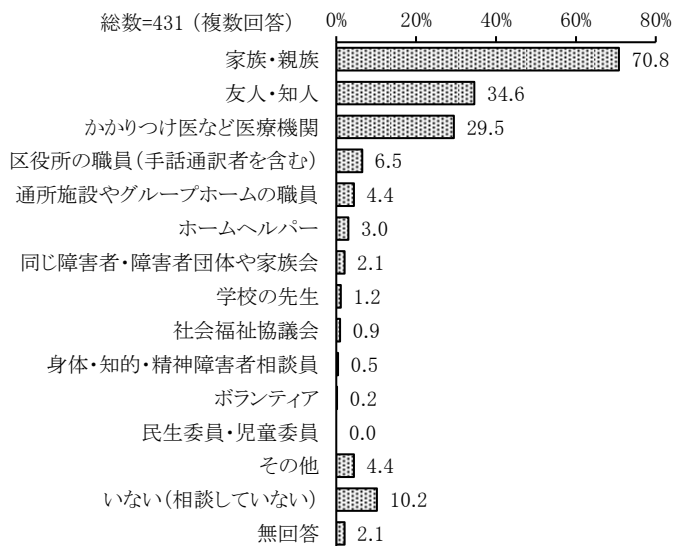
知的障害



精神障害



難病

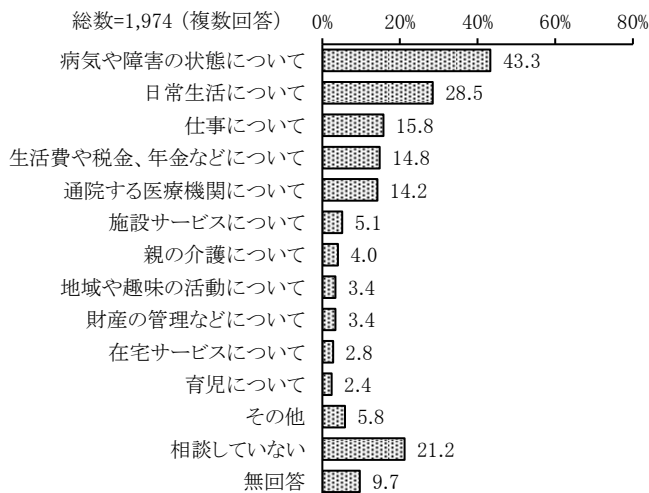


(15) 相談の内容

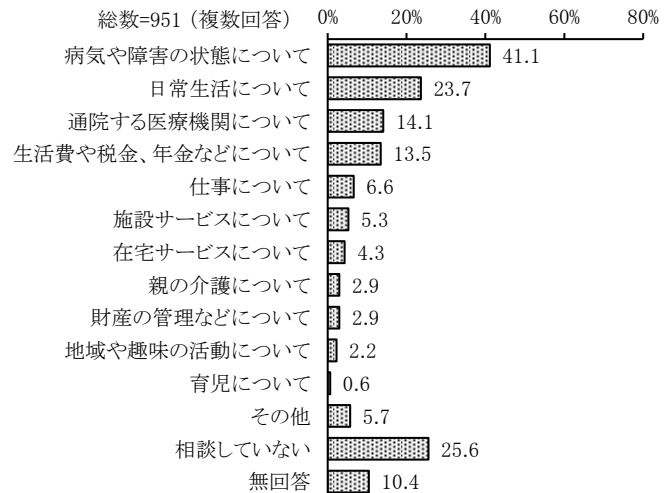
全体では、「病気や障害の状態について」が43.3%で最も多く、次いで「日常生活について」(28.5%)、「仕事について」(15.8%)、「生活費や税金、年金などについて」(14.8%)となっています。

障害別に見ると、知的障害では「日常生活について」が最も多くなっています。

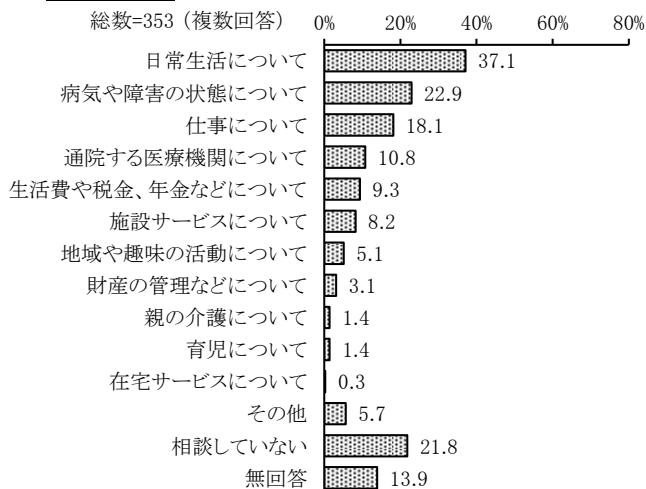
全体



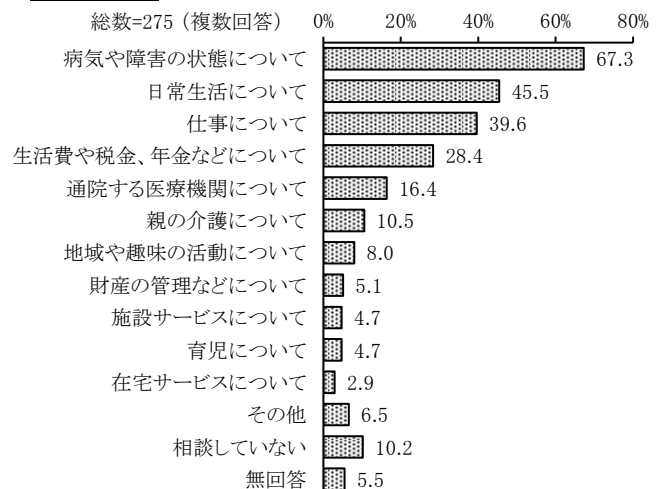
身体障害



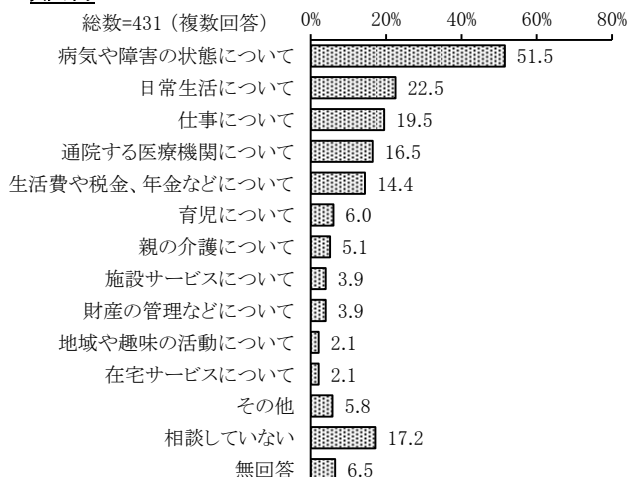
知的障害



精神障害



難病

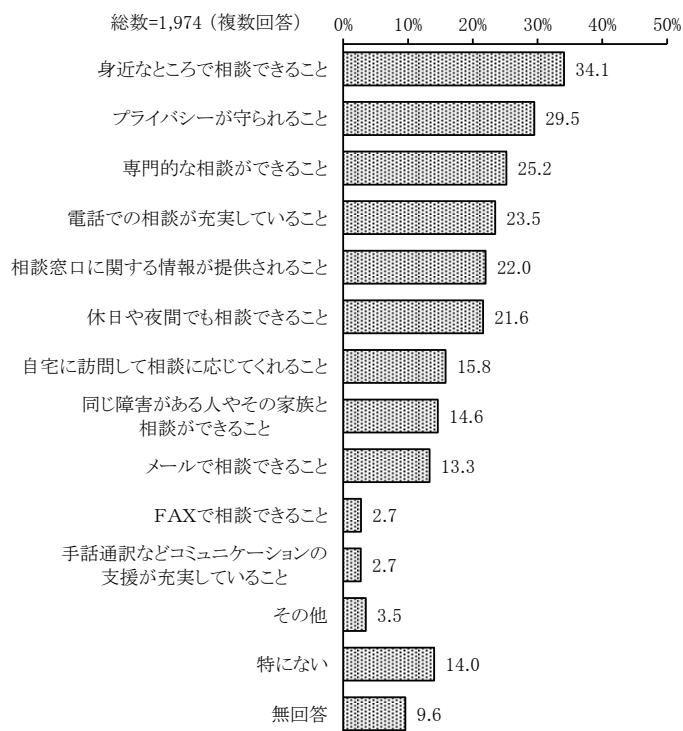


(16) 相談しやすい体制作りのために必要なこと

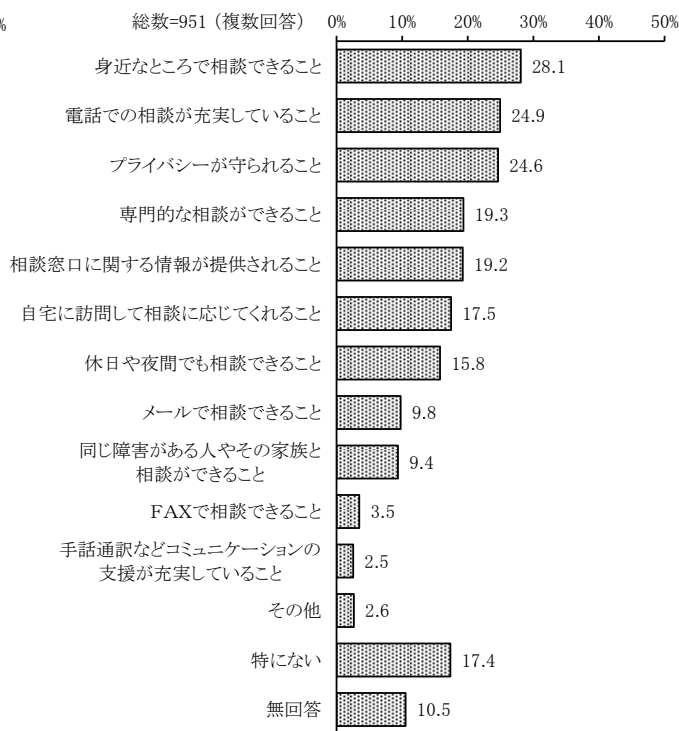
全体では、「身近なところで相談できること」が 34.1%で最も多く、次いで「プライバシーが守られること」(29.5%)、「専門的な相談ができること」(25.2%)、「電話での相談が充実していること」(23.5%)となっています。

障害別に見ると、精神障害では「プライバシーが守られること」が最も多くなっています。

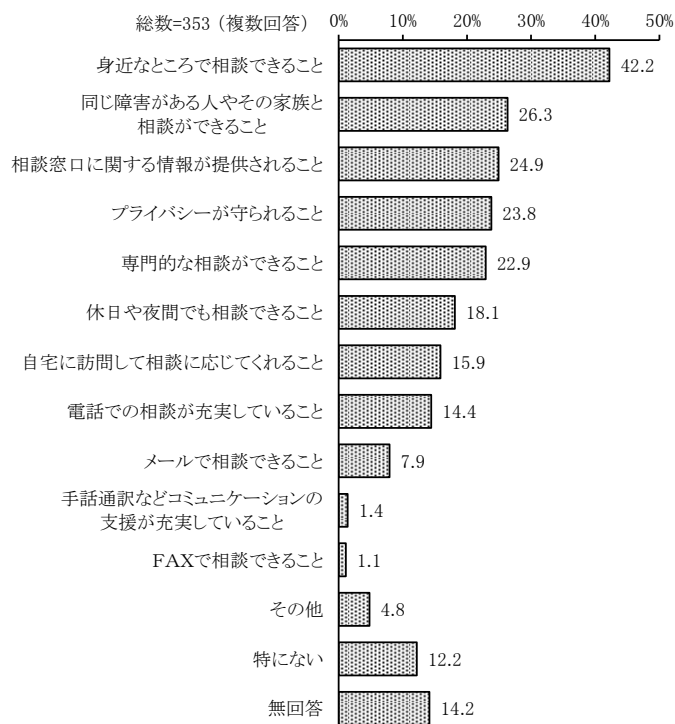
全体



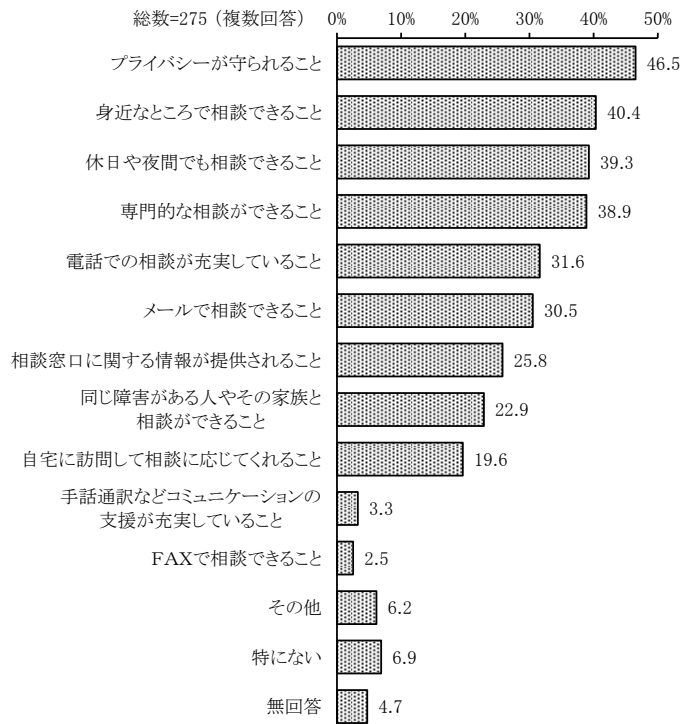
身体障害



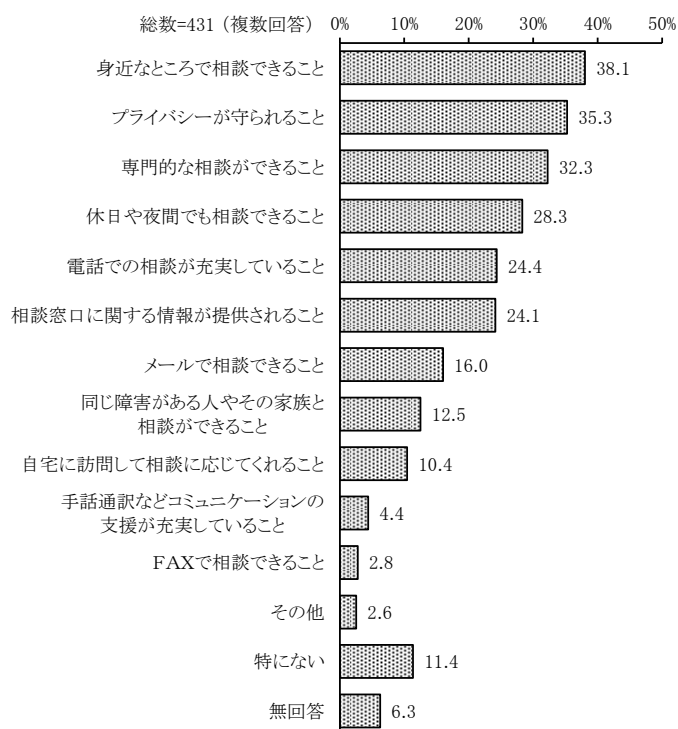
知的障害



精神障害



難病



(17) 障害福祉サービスの利用 ①一般のサービス

「現在利用している」では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が5.8%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」（4.9%）、「就労継続支援（B型）」（4.3%）、「生活介護」（2.8%）となっています。

「今後利用したい」では、「居宅介護（ホームヘルプ）」が11.4%で最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）」（10.5%）、「生活介護」（7.8%）、「自立訓練（機能訓練・生活訓練）」（6.9%）となっています。

現在利用している			今後利用したい		
1	居宅介護（ホームヘルプ）	5.8%	1	居宅介護（ホームヘルプ）	11.4%
2	短期入所（ショートステイ）	4.9%	2	短期入所（ショートステイ）	10.5%
3	就労継続支援（B型）	4.3%	3	生活介護	7.8%
4	生活介護	2.8%	4	自立訓練（機能訓練・生活訓練）	6.9%
5	計画相談支援・障害児相談支援	2.4%	5	施設入所支援	6.5%

(18) 障害福祉サービスの利用 ②児童を対象としたサービス

「現在利用している」では、「放課後等デイサービス」が41.7%で最も多く、次いで「児童発達支援・医療型児童発達支援」(16.0%)、「居宅訪問型児童発達支援」「保育所等訪問支援」がそれぞれ1.4%となっています。

「今後利用したい」では、「放課後等デイサービス」が40.3%で最も多く、次いで「児童発達支援・医療型児童発達支援」(17.4%)、「保育所等訪問支援」「障害児入所施設」がそれぞれ4.2%となっています。

現在利用している			今後利用したい		
1	放課後等デイサービス	41.7%	1	放課後等デイサービス	40.3%
2	児童発達支援・医療型児童発達支援	16.0%	2	児童発達支援・医療型児童発達支援	17.4%
3	居宅訪問型児童発達支援	1.4%	3	保育所等訪問支援	4.2%
	保育所等訪問支援		3	障害児入所施設	
5	障害児入所施設	0.7%	5	居宅訪問型児童発達支援	2.8%

(19) 北区独自サービスの利用

「現在利用している」では、「区の相談窓口(障害相談係)」が5.0%で最も多く、次いで「移動支援」(4.4%)、「日中一時支援」(1.8%)、「就労支援センター北」(1.4%)となっています。

「今後利用したい」では、「移動支援」が9.3%で最も多く、次いで「区の相談窓口(障害相談係)」(9.2%)、「日中一時支援」(6.8%)、「就労支援センター北」(3.8%)となっています。

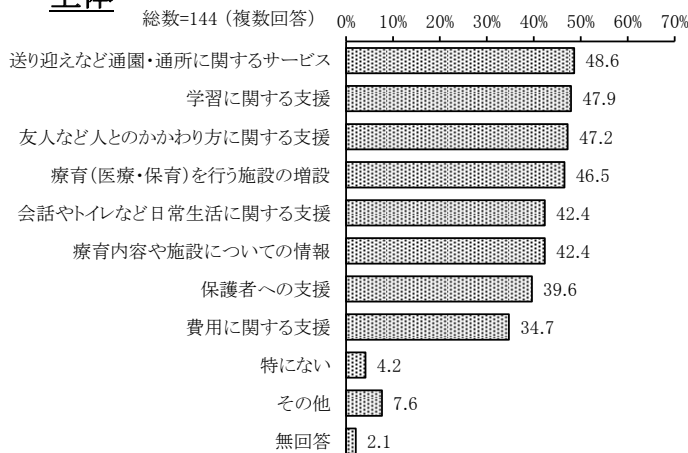
現在利用している			今後利用したい		
1	区の相談窓口(障害相談係)	5.0%	1	移動支援	9.3%
2	移動支援	4.4%	2	区の相談窓口(障害相談係)	9.2%
3	日中一時支援	1.8%	3	日中一時支援	6.8%
4	就労支援センター北	1.4%	4	就労支援センター北	3.8%
5	障害者地域活動支援室支援センターきらきら	1.3%	5	滝野川地域障害者相談支援センター	3.7%

(20) 療育についての希望

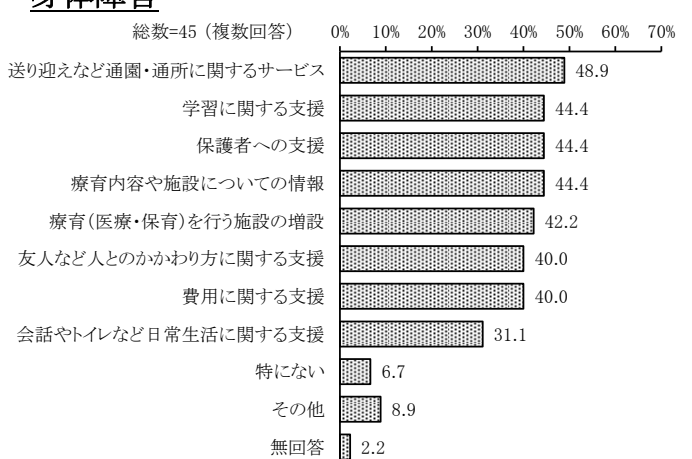
全体では、「送り迎えなど通園・通所に関するサービス」が 48.6%で最も多く、次いで「学習に関する支援」(47.9%)、「友人など人とのかかわり方に関する支援」(47.2%)、「療育(医療・保育)を行う施設の新設」(46.5%)となっています。

障害別に見ると、知的障害では「友人など人とのかかわり方に関する支援」「療育(医療・保育)を行う施設の新設」がそれぞれ最も多くなっています。

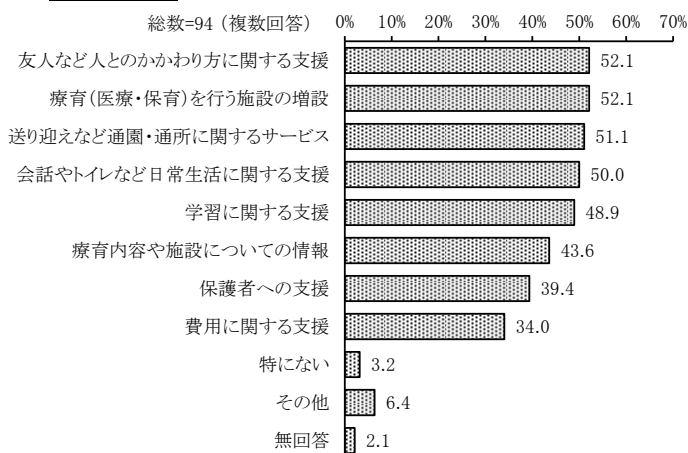
全体



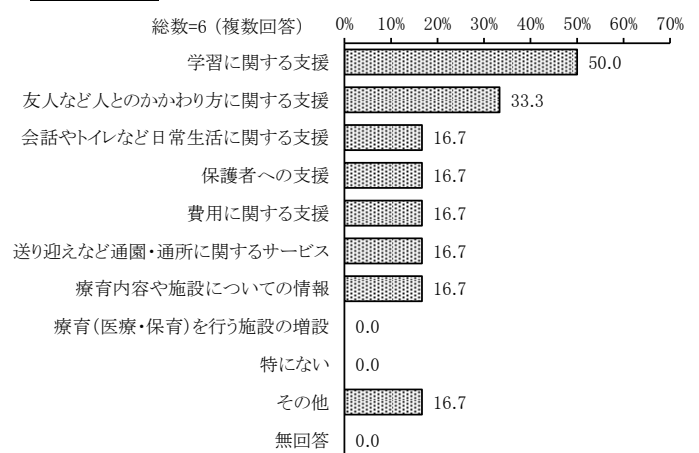
身体障害



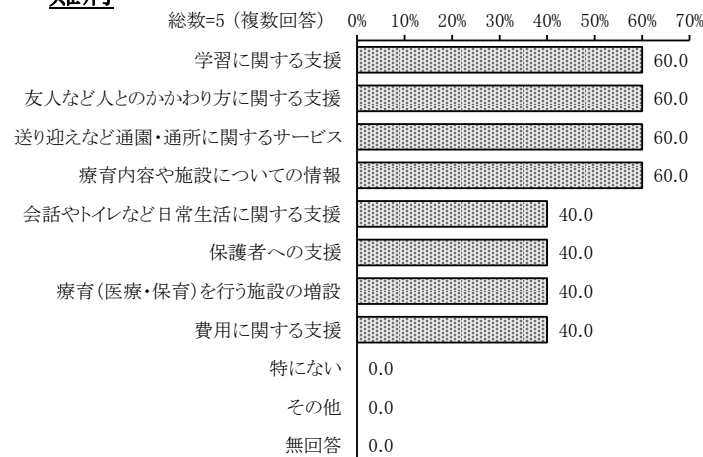
知的障害



精神障害



難病

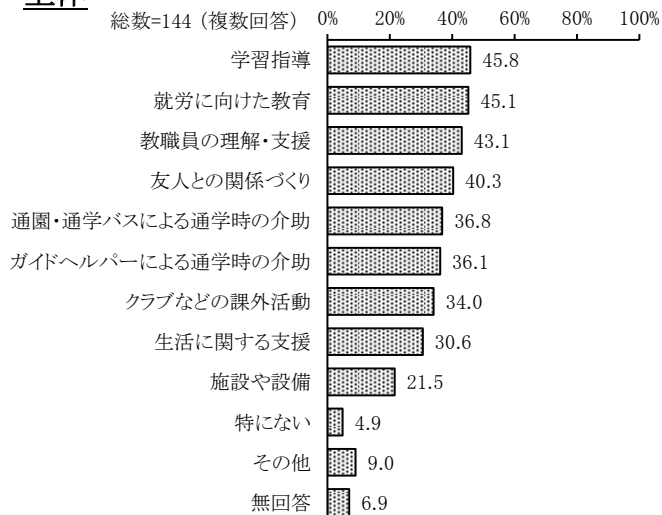


(21) 小学生～高校生の教育や学校生活についての希望

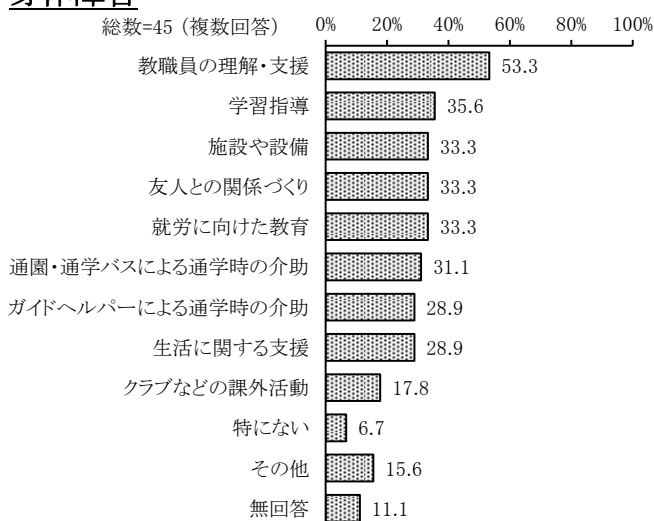
全体では、「学習指導」が45.8%で最も多く、次いで「就労に向けた教育」(45.1%)、「教職員の理解・支援」(43.1%)、「友人との関係づくり」(40.3%)となっています。

障害別に見ると、身体障害では「教職員の理解・支援」が、知的障害では「就労に向けた教育」が最も多くなっています。

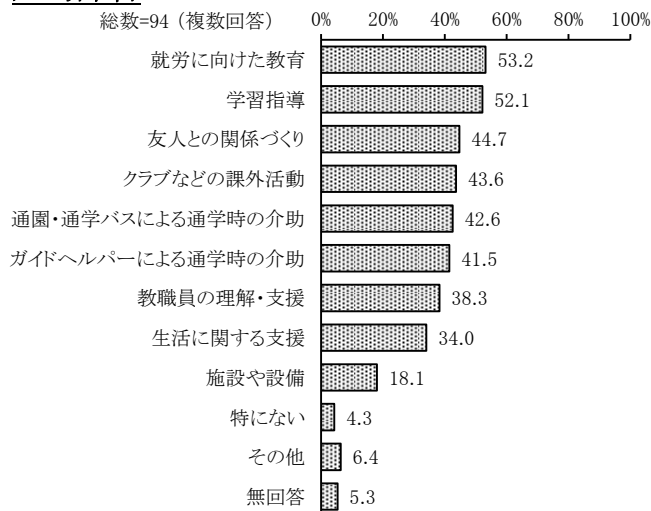
全体



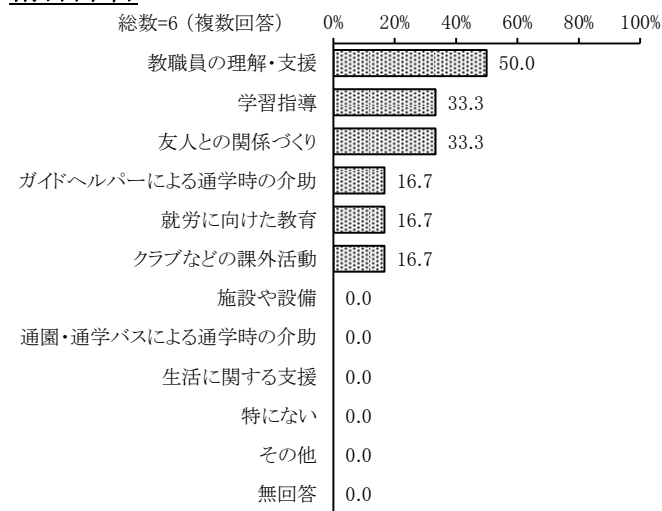
身体障害



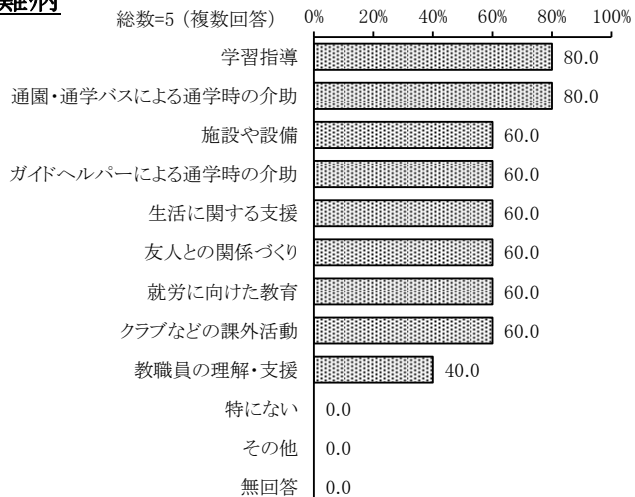
知的障害



精神障害



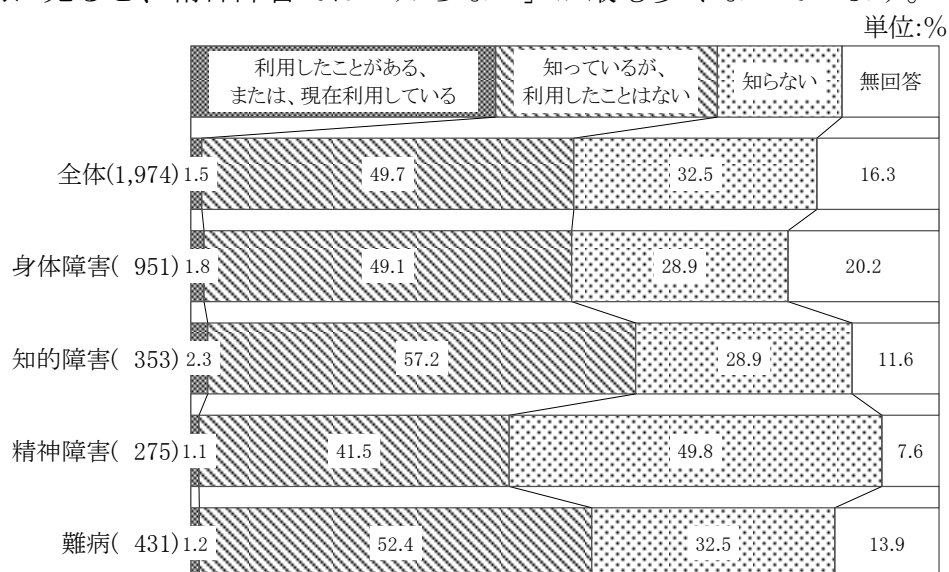
難病



(22) 成年後見制度の認知と利用

全体では、「知っているが、利用したことはない」が49.7%で最も多く、次いで「知らない」(32.5%)、「利用したことがある、または、現在利用している」(1.5%)となっています。

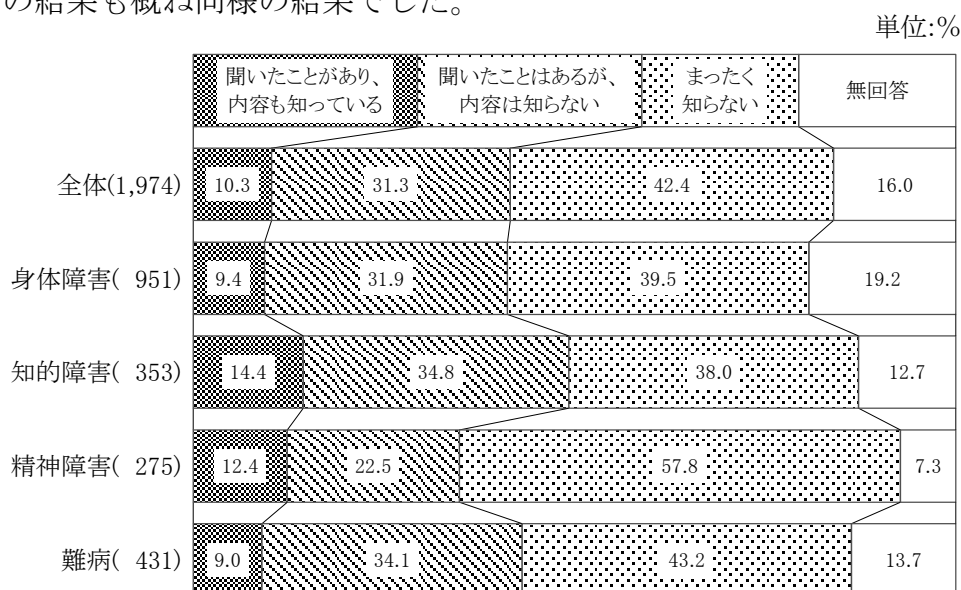
障害別に見ると、精神障害では「知らない」が最も多くなっています。



(23) 障害者差別解消法の認知状況

全体では、「まったく知らない」が42.4%で最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」(31.3%)、「聞いたことがあり、内容も知っている」(10.3%)となっています。

障害別の結果も概ね同様の結果でした。

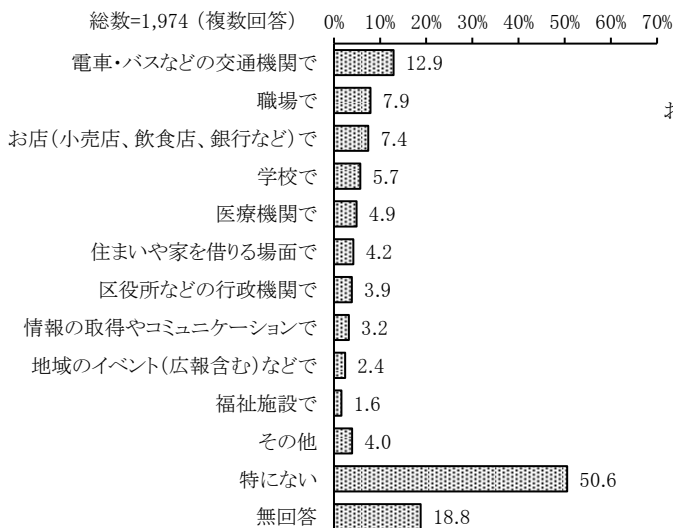


(24) 障害を理由とする差別を感じた経験

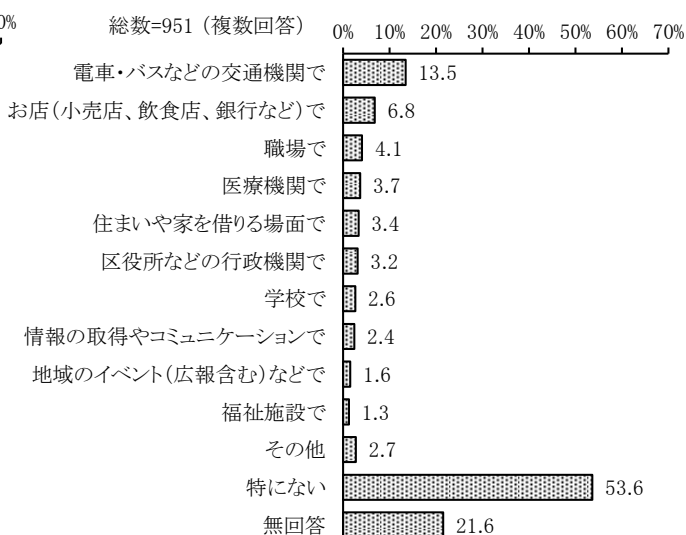
全体では、「電車・バスなどの交通機関で」が12.9%で最も多く、次いで「職場で」(7.9%)、「お店(小売店、飲食店、銀行など)で」(7.4%)、「学校で」(5.7%)となっています。

障害別に見ると、精神障害では「職場で」が最も多くなっています。

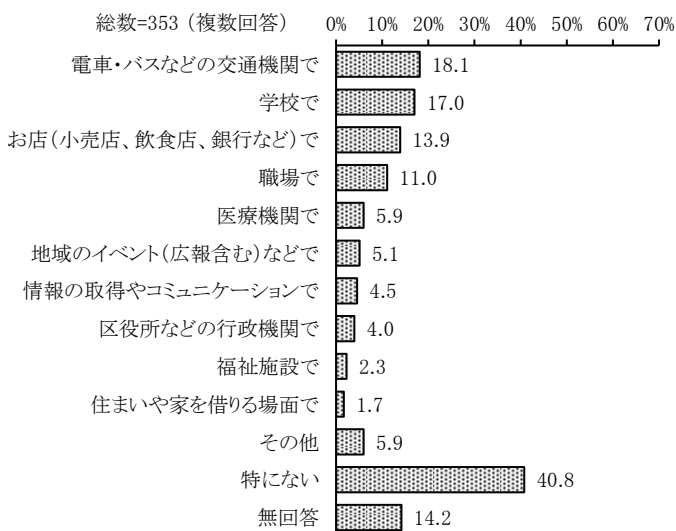
全体



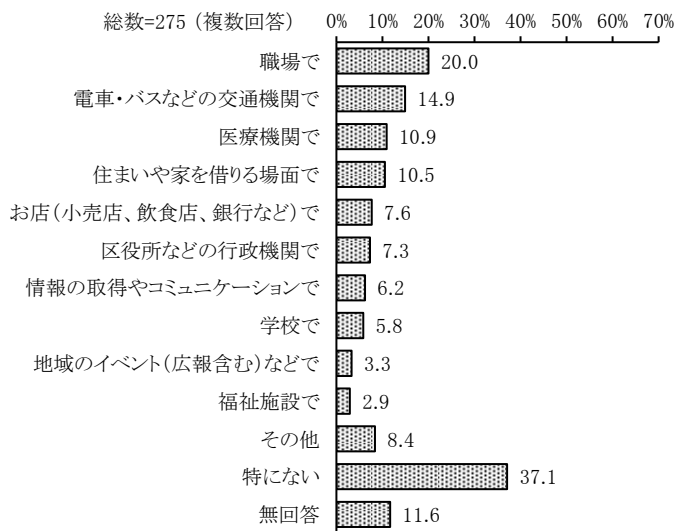
身体障害



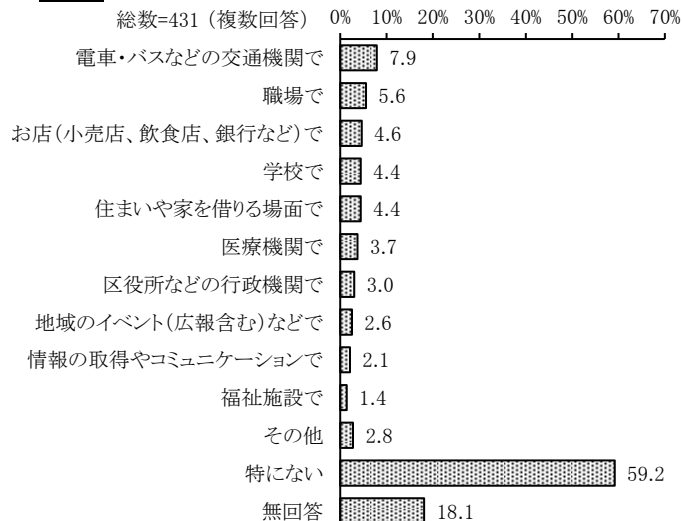
知的障害



精神障害



難病

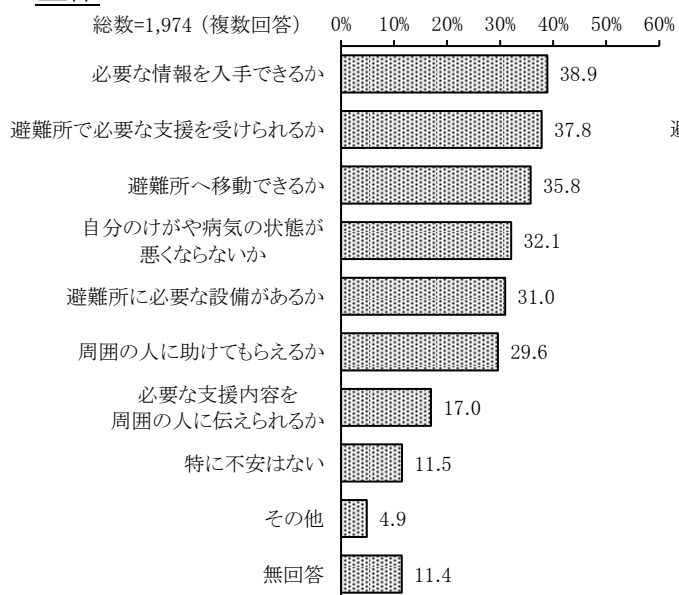


(25) 災害への不安として感じること

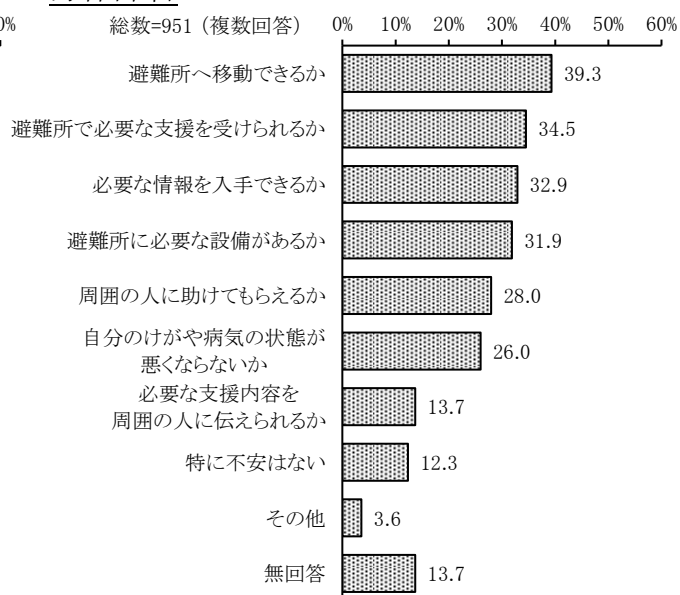
全体では、「必要な情報を入手できるか」が 38.9%で最も多く、次いで「避難所で必要な支援を受けられるか」(37.8%)、「避難所へ移動できるか」(35.8%)、「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」(32.1%)となっています。

障害別に見ると、身体障害では「避難所へ移動できるか」が、知的障害では「避難所で必要な支援を受けられるか」が、精神障害、難病では「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」が最も多くなっています。

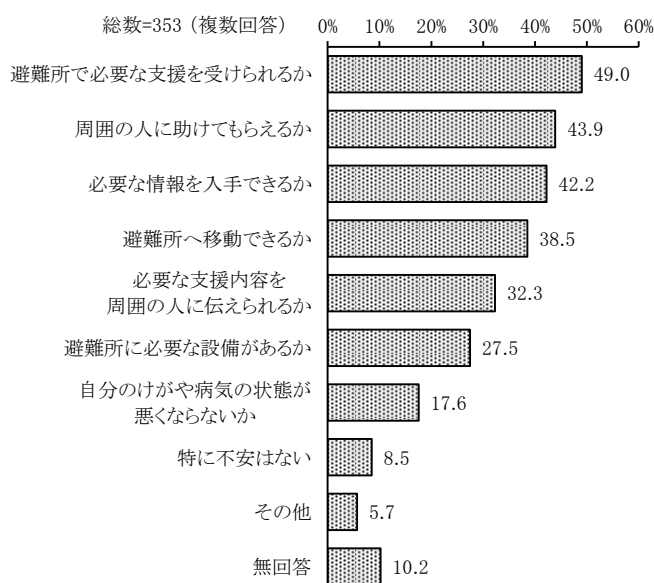
全体



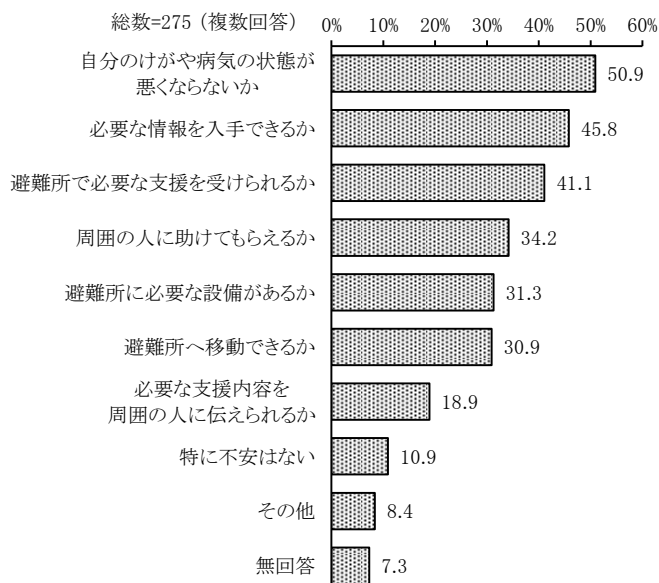
身体障害



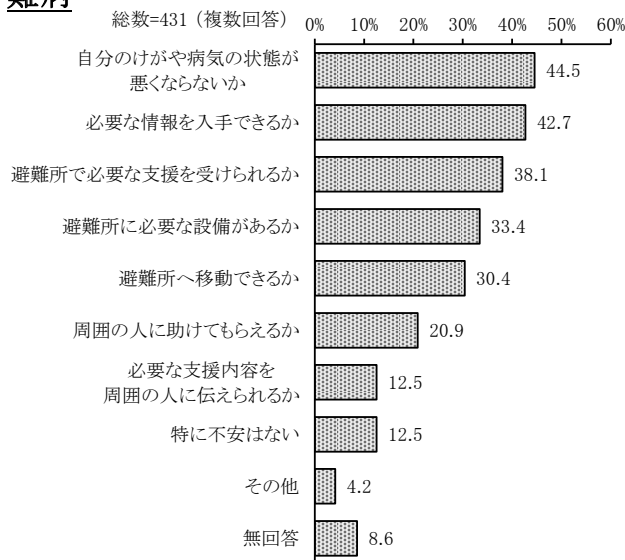
知的障害



精神障害



難病

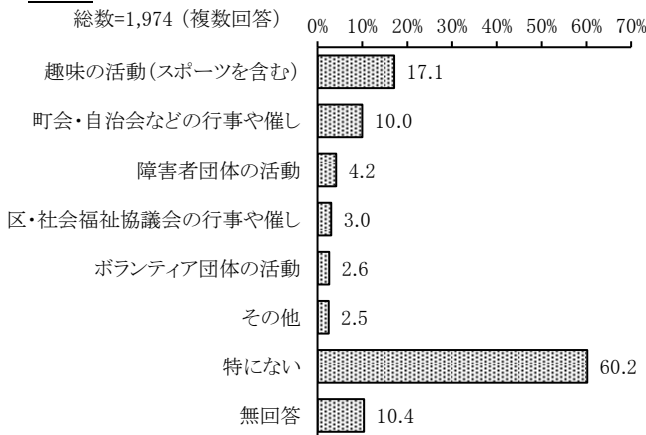


(26) 社会活動への取り組み

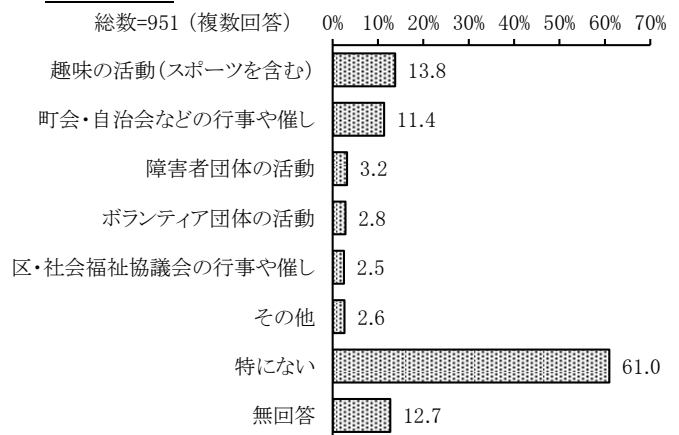
全体では、「趣味の活動 (スポーツを含む)」が 17.1% で最も多く、次いで「町会・自治会などの行事や催し」(10.0%)、「障害者団体の活動」(4.2%)、「区・社会福祉協議会の行事や催し」(3.0%) となっています。

障害別に見ると、知的障害者では「障害者団体の活動」がやや多くなっています。

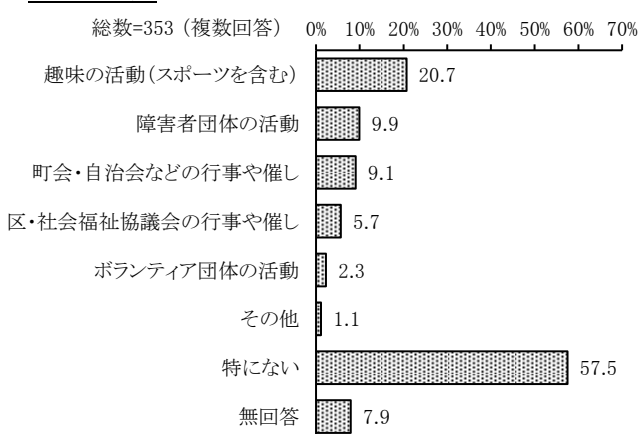
全体



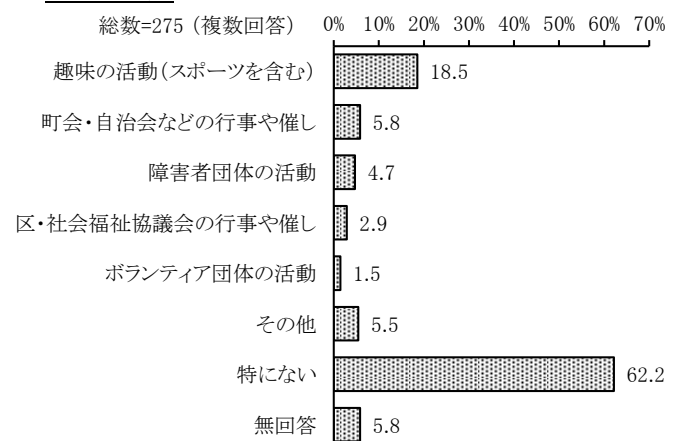
身体障害



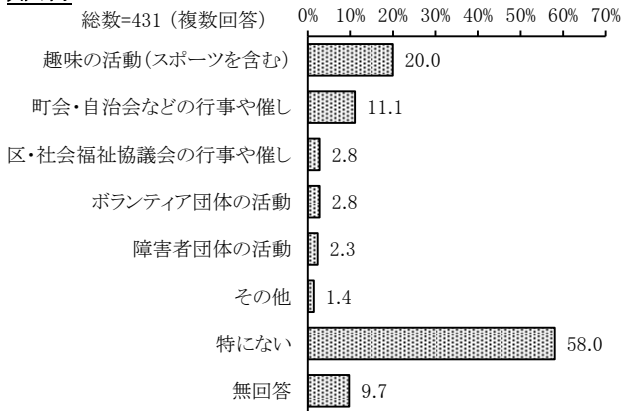
知的障害



精神障害



難病

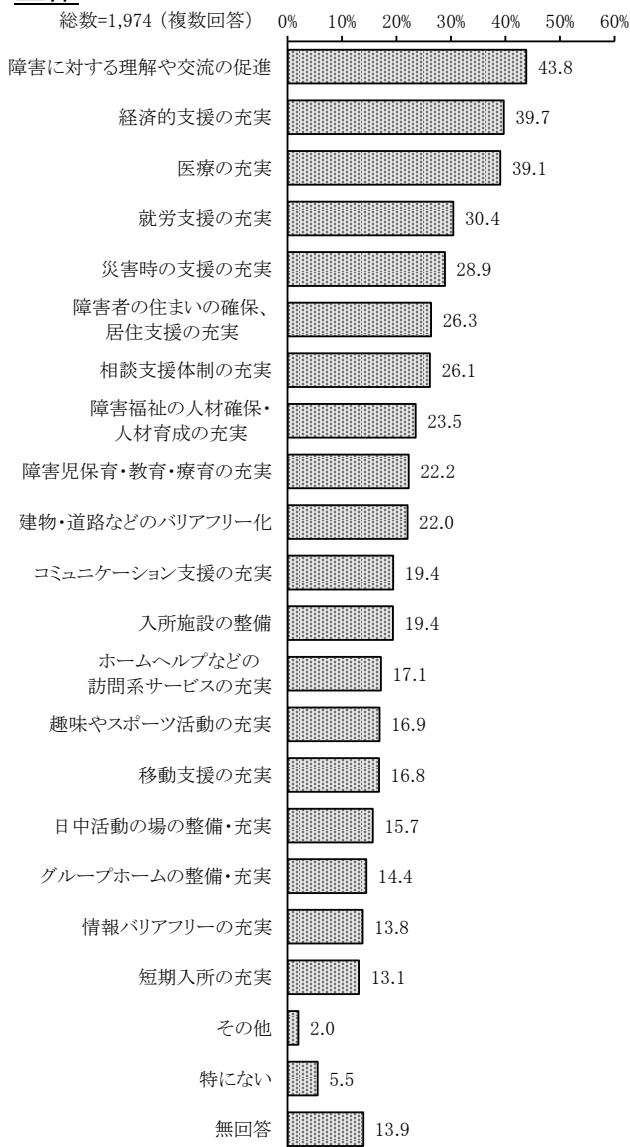


(27) 地域で安心して暮らすために重要な施策

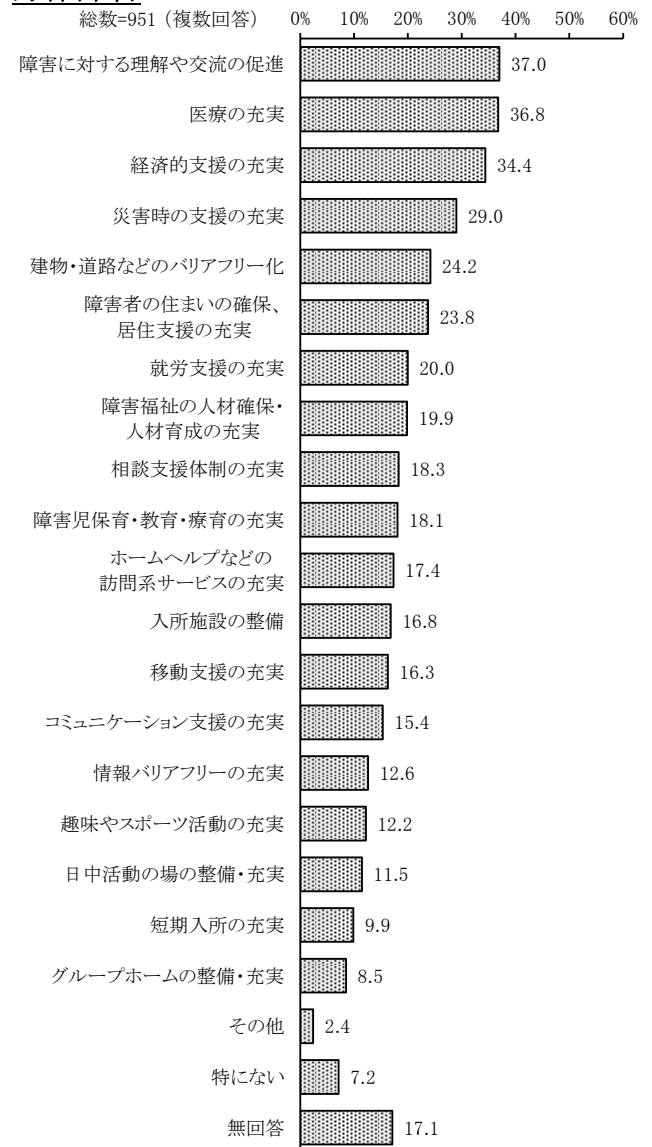
全体では、「障害に対する理解や交流の促進」が43.8%で最も多く、次いで「経済的支援の充実」(39.7%)、「医療の充実」(39.1%)、「就労支援の充実」(30.4%)となっています。

障害別に見ると、精神障害では「経済的支援の充実」が最も多くなっています。

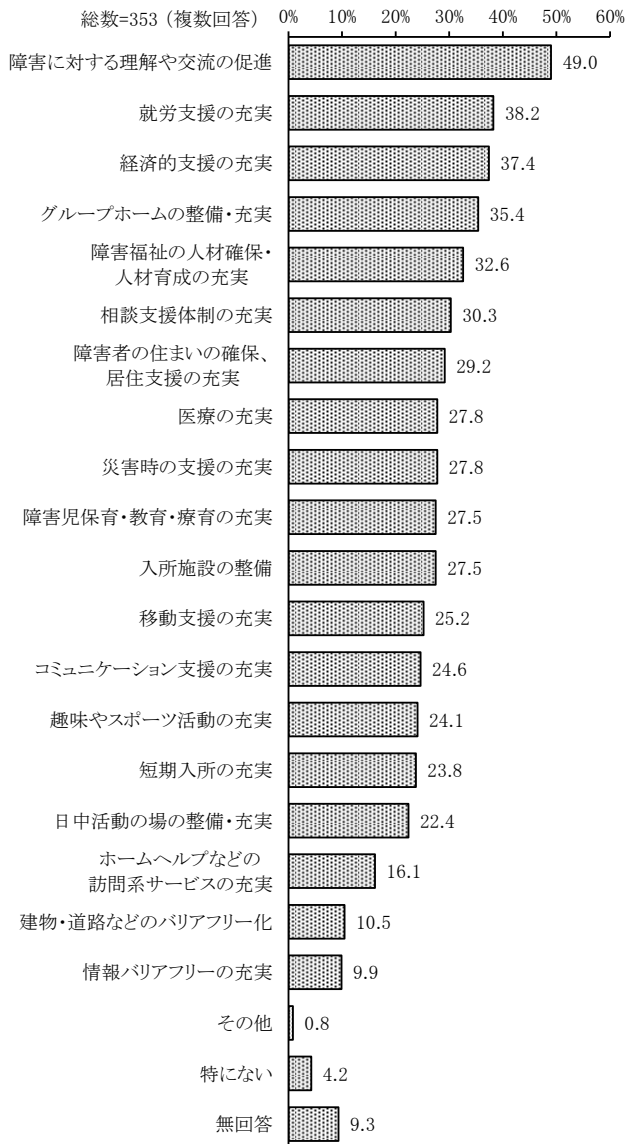
全体



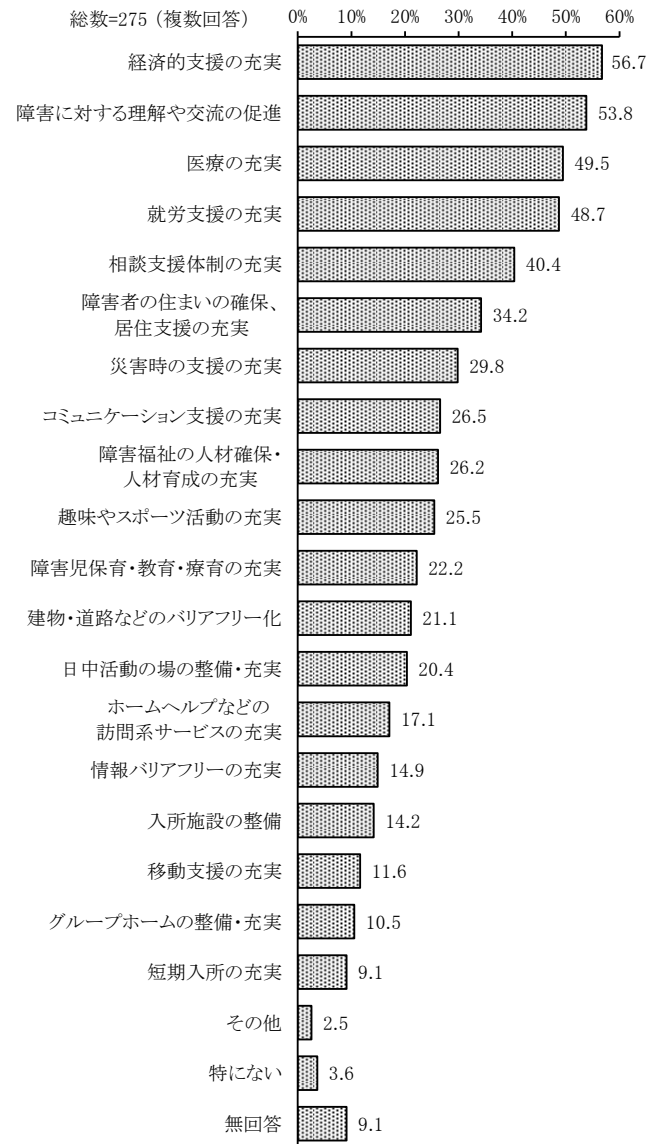
身体障害



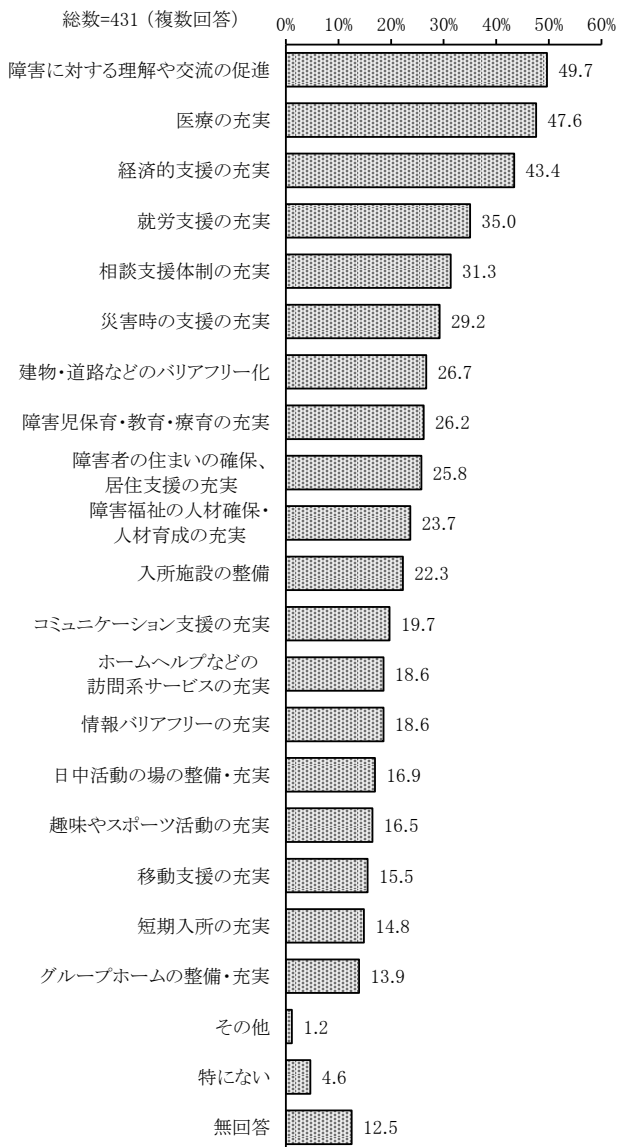
知的障害



精神障害



難病



北区障害者実態・意向調査報告書 概要版

令和 2 年 3 月発行

刊行物登録番号

2-1-005

東京都北区 健康福祉部 障害福祉課

発行 東京都北区王子本町一丁目 15 番 22 号

電話 (03) 3908-9085